阪南市埋蔵文化財報告ＸＸＩ

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＩ

１９９６年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は、公園整備事業、レジャー・レクリエーション施設建設事業、交通事情改善の為の道路建設事業、上・下水道整備事業等、市民のための「まちづくり」を実施しなければなりません。当然、それらを実施するためには、埋蔵文化財に影響を与えることは避けることのできない事実です。埋蔵文化財保護行政とは、それらの関係機関と連携をとり、埋蔵文化財に与える影響が最小限になるように努めていかなければならないと考えております。文化財保護行政の役割として、本市に存在する様々な文化財を「保存・公開・活用」しなければなりません。その為、市独自の文化財保護条例の設置や、博物館、郷土資料館等の公開施設の建設が急がれます。

本報告書は、国庫補助事業として営利を目的としない個人住宅・農業用倉庫の建築等の工事に先立って実施したものです。現在、私たちが行っている行政発掘調査（緊急発掘調査）は、記録保存という「最低限の保存」であります。土木工事等の開発行為によって埋蔵文化財（遺構・遺物）が破壊等の影響を受ける部分について行われています。

ここにその成果を報告いたします。

最後になりましたが、調査に協力くださった土地所有者をはじめとする関係者の方々に感謝の意を表するとともに、今後とも文化財保護に、ご理解、ご協力をお願いいたします。

１９９６年3月

阪南市教育委員会
教育長　庄司菊太郎

例　言

1．本書は、阪南市教育委員会が、平成７年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当、実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2．調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野仁を担当者として実施した。
3．本書内に示した標高はＴ.Ｐ.であり、方位は既成の地形図等を使用したものを除いて磁北である。
4．調査にあたっては調査地の土地所有者等関係者各位の理解と、協力を得た。
5．本書の執筆、編集は上記の担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6．本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会に保管されているので、広く活用されたい。

（調査従事者）
宇沢克之、辻野　勝、伊庭　勉、甲斐　易、和田旬世、井上祥子、村上亮平、中橋　泉、丹羽　徹、井上　進、新矢和広、外池美渡里、室谷順子、森下博司、木村真喜、堀田育代、加籏左智子、福森由記

目　次

第１章　調査に至る経過		1
第２章　歴史的環境		2
第３章　調査の成果		
第１節　尾崎海岸遺跡	９５－１区	5
	９５－３区	7
第２節　福島遺跡	９５－１区	8
第３節　馬川遺跡	９５－２区	8
第４節　神光寺（蓮池）遺跡	９４－３区	9
	９５－１区	10
	９５－２区	11
	９５－３区	12
第５節　下出遺跡	９４－１区	13
第６節　向出遺跡	９５－１区	13
第７節　波有手遺跡	９５－１区	14
	９５－２区	15
第８節　鳥取南遺跡	９５－１区	16
	９５－２区	16
第９節　西鳥取遺跡	９５－１区	17
第10節　箱作今池遺跡	９４－３区	21
	９５－１区	24
	９５－３区	24
	９５－４区	25
	９５－６区	25
第11節　田山遺跡	９４－４区	26
	９５－１区	27
	９５－２区	28
第４章　まとめ		28

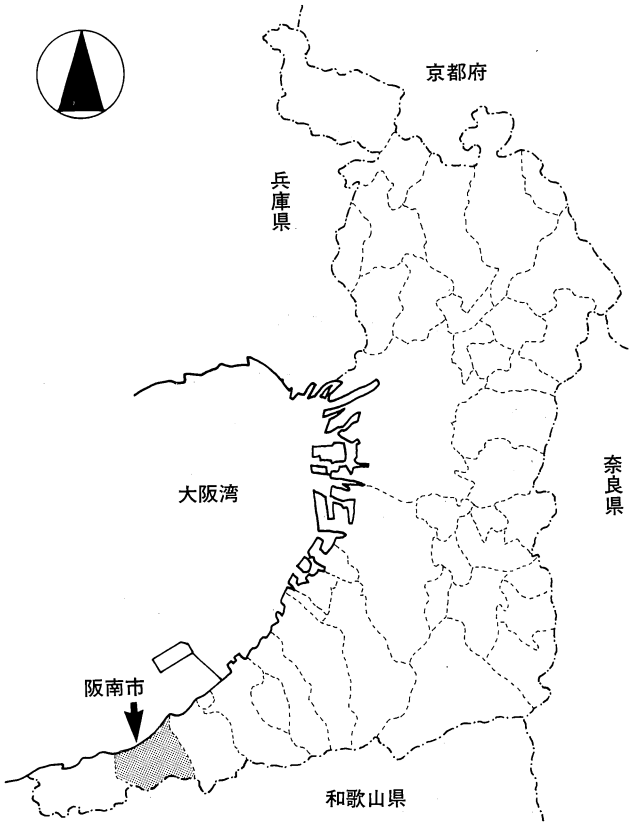
第１章　調査に至る経過

阪南市は、大阪府の南西部にあり、大阪府の中心部から距離にして約40km、公共の交通機関を利用して、１時間弱の地点に位置する。地勢的には、東西に約８km、南北に約６km、面積は36.05km²の市域を有し、その南側には和泉山脈があり、市域の約４分の３が山地となっている。

市域では、１９９６年度に『阪南スカイタウン』の「まちびらき」が行なわれ、開発に関連する上・下水道、道路等の工事が急速に行われ、それに伴い発掘調査件数が増加された。また箱作地区は、土地区画整理事業に伴い、同様に関連の工事に伴う発掘調査件数が増加された。今後、事業地内において、民間の開発に伴い発掘の届け出が増加されるであろう。民間による区画整理事業も予定され、それに伴う発掘調査も現在行われている。

近年、行なわれている開発という行為の中で、井山城、ミノバ石切場等をはじめとする多くの遺跡が失われているという事実がある。

本市では、１９８５年度より、国庫補助事業として、個人住宅・農業用倉庫等の建築工事に先立って調査を実施している。本書では、１１遺跡、２３ヵ所の発掘調査を実施した。以下に、その概要の報告を行なう。



第１図　阪南市位置図

第２章　歴史的環境

阪南市は、大阪平野の南部に位置する。北を大阪湾、南を和泉山脈に囲まれ、市域の４分の３を山地が占めている。その山地から派生する丘陵部の間を、北から男里川、花折川、釈迦坊川、茶屋川、田山川等が大阪湾に流れ込み、それぞれ沖積地や段丘を形成する。その沖積地や段丘は、現在、人々の生活区域であり、また、埋蔵文化財包蔵地とそのほとんどが一致する。調査成果から見られる遺跡の概要を時代別に以下に述べる。

縄文時代としては、神光寺（蓮池）遺跡から、「柳又型」と呼ばれる縄文時代草創期と思われる幅の広い有茎尖頭器が採取されている。また、馬川北遺跡から後期～晩期、高田遺跡からは縄文時代晩期の土器が、玉田山、自然田、向出、貝掛、箱作今池、田山遺跡で石鏃が出土している。

弥生時代としては、神光寺（蓮池）遺跡から中期の方形周溝墓等の遺構が検出され、中期の土器をはじめとして、石包丁、石鏃等の遺物が、馬川、馬川北、久保田、鳥取南等の遺跡から、後期の土器が出土している。住居跡等は確認するに至っていないが、尾崎海岸遺跡において弥生時代末期～古墳時代初期の製塩土器等の遺物を含む遺構が検出され、生産遺跡の性格がうかがえる。

古墳時代としては、茶屋川左岸に築造された小型の帆立貝式前方後円墳の箱作古墳と、現在の市役所の位置に皿田池古墳の２基が中期の古墳として存在していたことが資料等からうかがえるが残念ながら、現存はしていない。また、高田山古墳群、塚谷古墳群、玉田山古墳群が後期の古墳として揚げられるが、現存するものは玉田山古墳群のみで、調査が実施された１号墳からは、須恵器長頸壷、金環、琥珀製棗玉等多数の副葬品が出土している。

奈良時代としては、波有手遺跡から、多数の製塩土器と共に「海」「水」「省」「佐土」等と記された墨書土器が３０数点、土坑や溝等から出土している。また、田山遺跡から須恵器、土師器等の生活雑器や多数の製塩土器が出土し、農漁村では見られない円面硯、墨書土器等の遺物が出土している。ほかには、貝掛遺跡から奈良三彩長坏が出土している。

平安時代としては、馬川遺跡から、当時の複弁連華文軒丸瓦が出土している。ほか、その南に位置する平野寺（長楽寺）跡からも、同時期の複弁連華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦が採取されている。これらの事実や伝承等から、当時、上記の遺跡周辺に寺院の存在が想定される。

中世期になると、ほとんどの遺跡において、遺構、遺物を検出することができるが特徴を揚げると田山遺跡と井山城がある。

田山遺跡では、鎌倉・室町時代のものとして、瓦器の椀・皿、瓦質羽釜等の生活雑器とともに、蛸壷、土錘等の漁撈関係の遺物が出土し、蛸壷、土錘を焼いたと思われる土坑等も検出され、農村と漁村の性格をあわせもつ村落の存在を推定することができる。また、同時代の遺物と共に多くの輸入陶磁器が出土していることも特質として揚げられる。前述の蛸壷焼成遺構と同様の遺構は、馬川、田山東遺跡においても検出されている。

南北朝時代の山城である井山城は、在地領主の残した「軍忠状」等の文献史料等によ

って、飯ノ峯川流域の山地にその存在が想定されていた。関西国際空港建設に伴う阪南丘陵開発の事前調査により、丘陵頂部・斜面において、中世の山城の特徴である土手や石垣等の曲輪状遺構、礎石建物跡、土師器、瓦器、瀬戸焼の碗等の遺物が出土し、これらから中世の山城の存在が考古学的にも実証されることになった。

近世期になると当時の絵地図をはじめとする史料等から、尾崎、下出、黒田、新、波有手、石田、中、自然田、山中、桑畑の村々が「鳥取庄（鳥取郷)」としてまとまり、箱作、貝掛、舞の村々と後に開発された山中新田が加わり「下ノ庄（下荘地区)」としてまとまり、あわせて１４ヵ村が存在していたことがわかる。

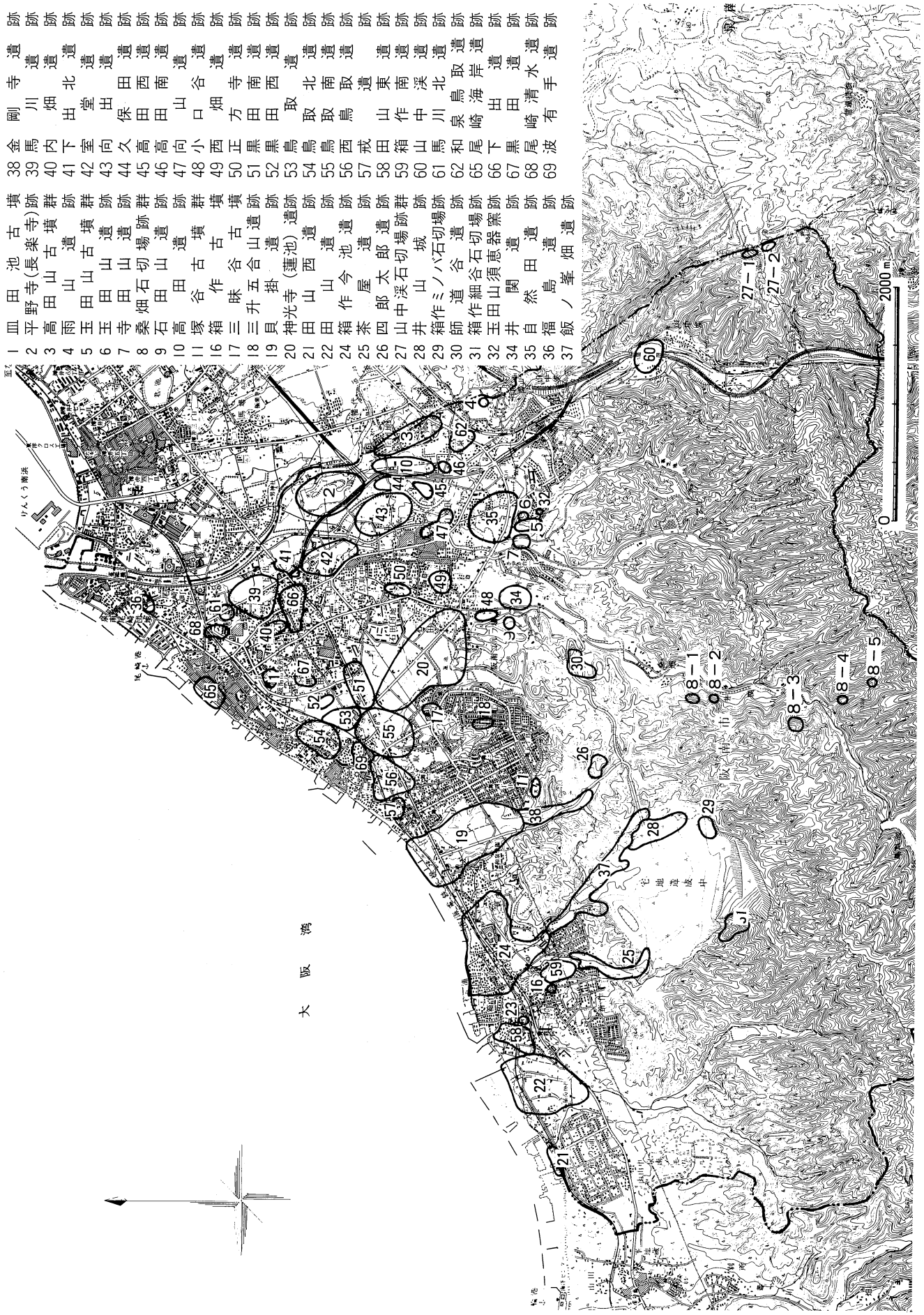
上記の近世期の村のうち、明治期に廃絶した「舞村」が、絵図をはじめとする文献資料から知られ、貝掛遺跡の調査によって考古学的に実証された。遺構は、鍛冶炉と思われる焼けた形跡がある土坑と建物跡、遺物は近世陶磁器（伊万里、瀬戸、唐津、備前等）が確認されている。

この時期様々な産業が栄えたが、その中で調査によって実証された遺跡として、和泉砂岩の採掘場であるミノバ石切場が揚げられる。石切場と確認できる採掘坑がみられ、遺物は、ノミ、サキノミ、ヤ等加工用の鉄製品や、石臼、茶臼、手洗鉢等の製品、未製品が多量に出土している。石切場等で仕事をしていた「石工」の存在は、『和泉名所図絵』や全国各地に存在する石造物の銘文からうかがえる。

以上が、本市における埋蔵文化財を中心とした歴史的環境の概要である。以下の章においては、本年度の国庫補助事業にともなう調査の成果を報告する。

（参考）

『阪南町史』　上巻　阪南町　１９８３年
『阪南町史』　下巻　阪南町　１９７７年
『田山遺跡』(財)大阪文化財センター　１９８３年
『田山・神光寺遺跡発掘調査概要』阪南町教育委員会　１９８６年
『井山城跡』(財)大阪府埋蔵文化財協会　１９８６年
『貝掛遺跡』(財)大阪府埋蔵文化財協会　１９８６年
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ』阪南市教育委員会　１９９２年
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ』阪南市教育委員会　１９９３年
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ』阪南市教育委員会　１９９４年

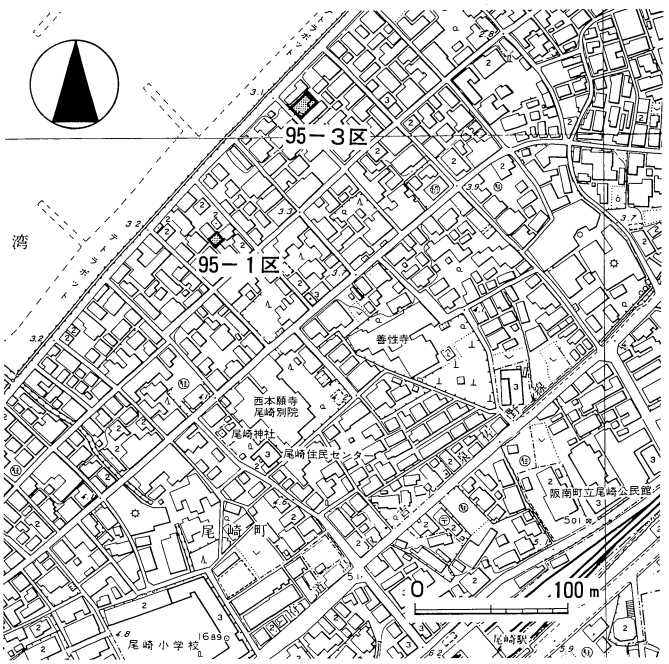


第２図　阪南市内埋蔵文化財分布図

第３章　調査の成果

第１節　尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は、近世期に浜（孝子越）街道の町場として栄えた尾崎村と重なる。１９９１年の住宅建築工事の折に発見周知された遺跡である。この調査（９０－１区）では、砂地に焼けた石が敷き詰められ、弥生時代末期から古墳時代初頭の製塩土器、蛸壷等遺物が多数散乱していたことが確認された。

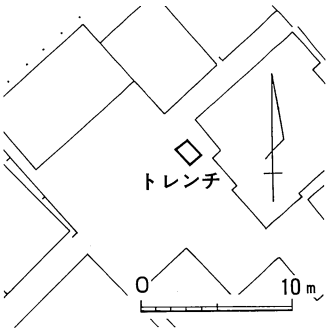


第３図　尾崎海岸遺跡調査区位置図

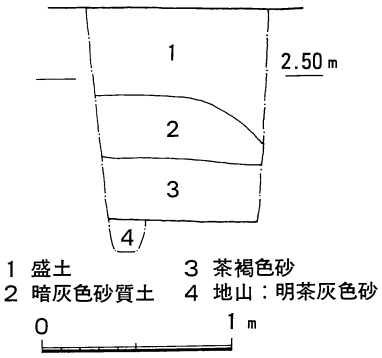
９５－１区

ａ．調査の概要（第３～５図）

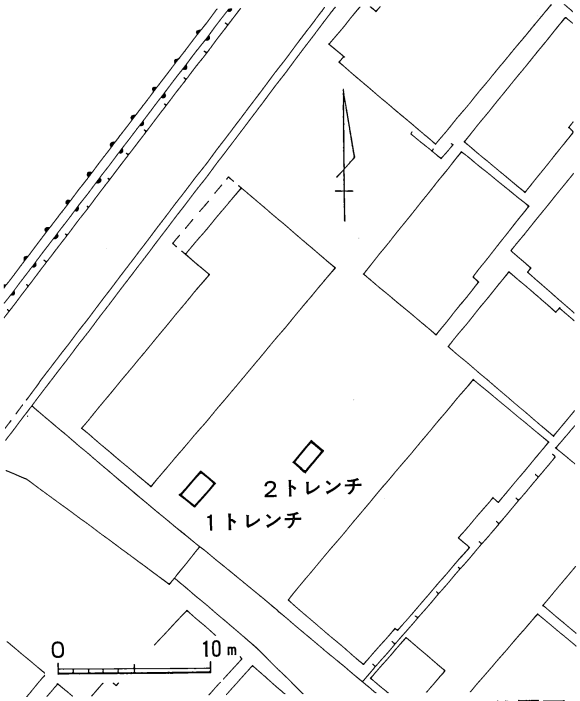
調査区は、本遺跡の中央部、現海岸線より40mの場所に位置する。調査は、調査区内北部に１m×1.5mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層盛土以下、第２層暗灰色砂質土、第３層茶褐色砂、第４層明茶灰色砂の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第２層から、土師質蛸壷、土師質管状土錘、瓦、陶器、磁器等を、第３層より土師質土器が出土した。



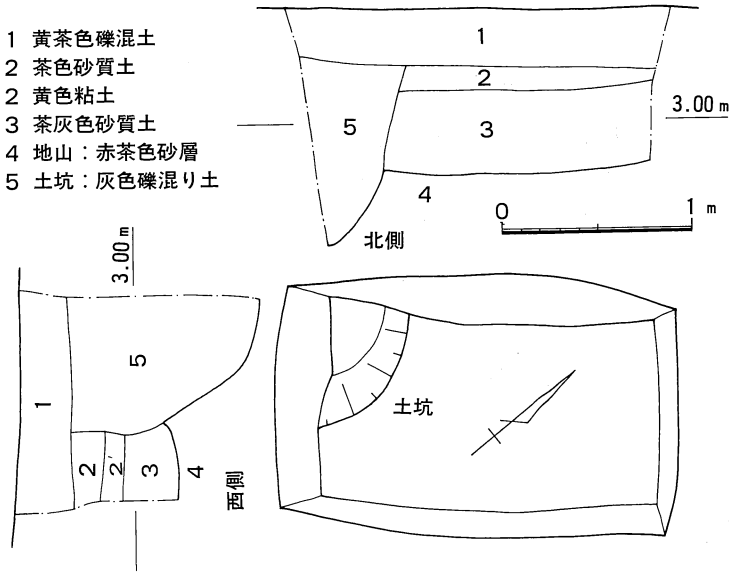
第４図　尾崎海岸遺跡
９５－１区トレンチ位置図



第５図　尾崎海岸遺跡
９５－１区東断面図



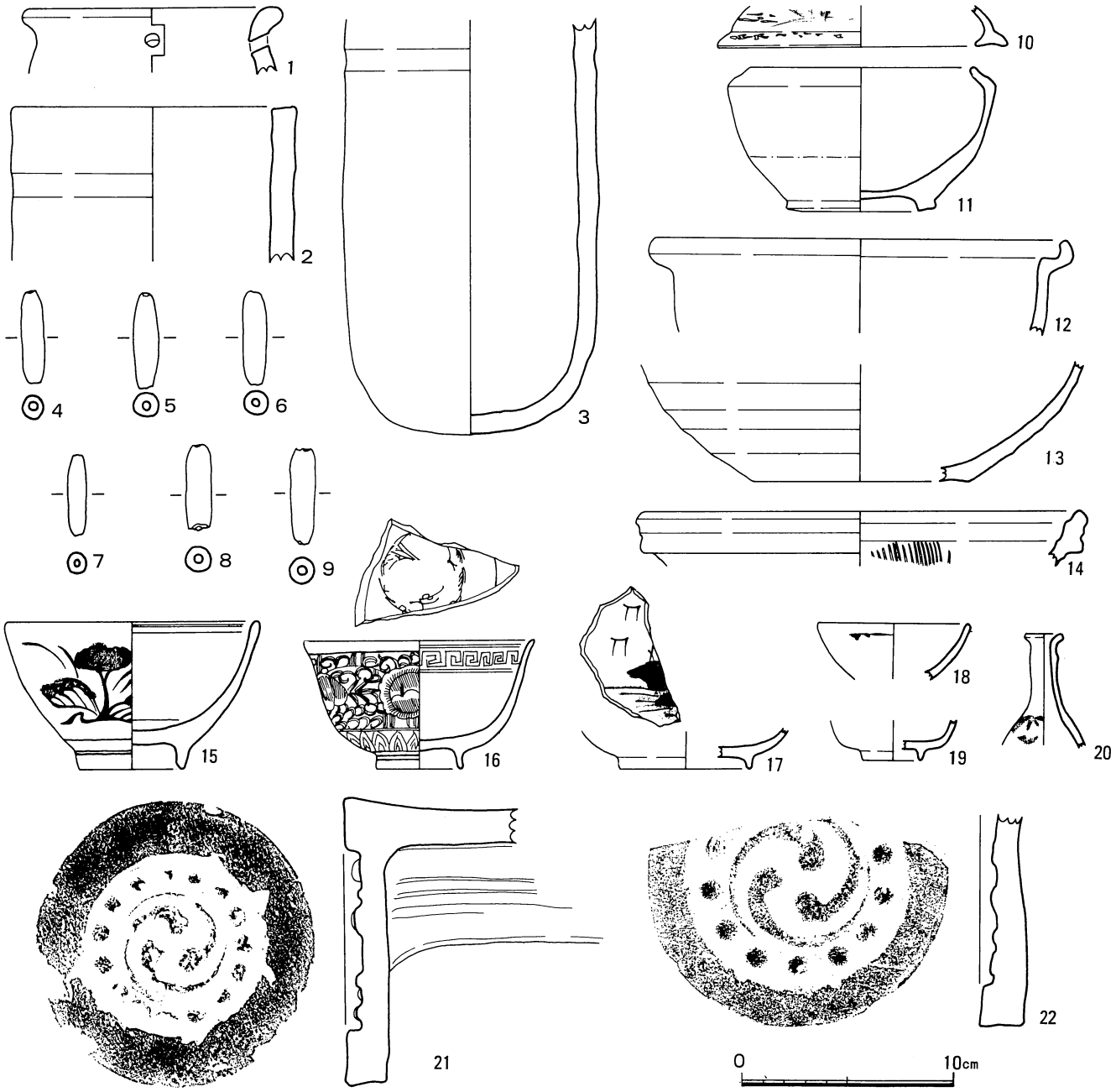
第７図　尾崎海岸遺跡９５－３区トレンチ位置図



第８図　尾崎海岸遺跡９５－３区１トレンチ平面図・北、西側断面図

b．遺物（第６図）

１は土師質土器の壷の口縁部、２は土師質蛸壷の口縁部、３は土師質蛸壷の底部が丸いもので、共に近世期以降のものと思われる。４～９は土師質管状土錘、10～14は陶器で、10は蓋の口縁部、11は壷、12・13は鍋で12は口縁部、13は底部、14は摺鉢の口縁部である。15～20は染め付けの磁器で15・16は碗で、17は皿の底部、18・19は湯飲み碗で18は口縁部、19は底部、20は瓶の口縁部である。21・22は巴文軒丸瓦で瓦当から近世期のものと思われる。



第６図　尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物

９５－３区

ａ．調査の概要（第３・７図）

本調査区は尾崎海岸遺跡の北端部に位置する。1.2m×２m及び１m×1.8mのトレンチを設定し、前者を１トレンチ、後者を２トレンチとして実施した。基本層序は図示の通りであるが、自然堆積ではなく近世期以降の整地層と思われる。

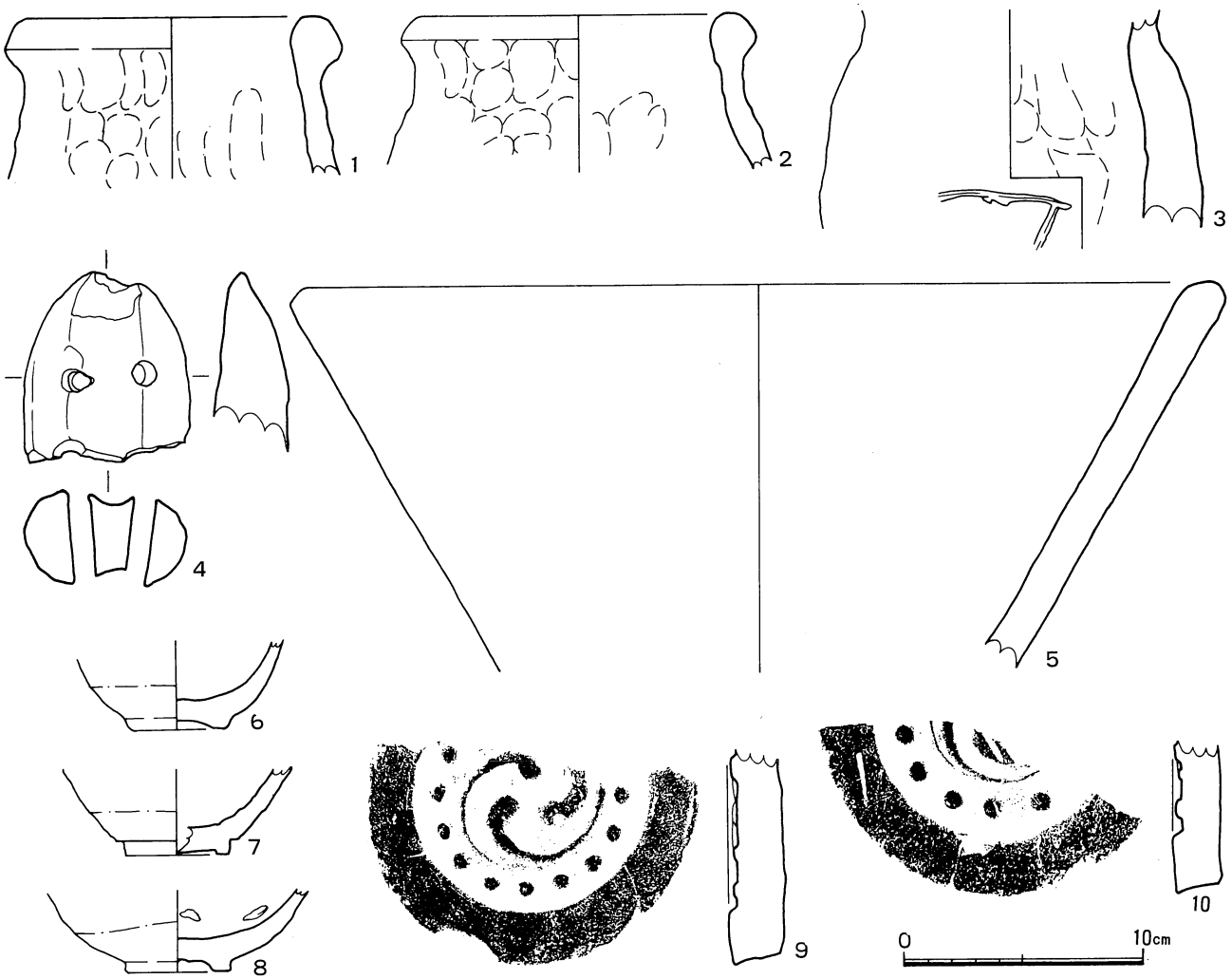
ｂ．遺構（第８図）

－土坑－

１トレンチの北西角に位置し、径55cm以上、深さ１mを呈する。埋土は灰色礫混土であった。遺物は、土師質蛸壷・有溝土錘をはじめとする漁撈関係遺物の他、炮烙等の土師質土器、瓦等が出土した。

ｃ．遺物（第９図）

１～３は土師質の蛸壷。いずれも中世期のものと思われる。３にはヘラ記号が見られる。４は土師質土錘。比較的大型の網に付けられていたものと想定される。５は近世期の土師質土器の鉢と思われる。底部が欠損している。市内では馬川遺跡で同種の鉢が出土しており、それには底部中央に径２～３cmの穴が穿ってあり、近年の植木鉢のような形態である。６～８は陶器で、うち７・８は天目茶碗。８の内面見込部には胎土目が見られる。９・10は軒丸瓦。共に近世期以降のものである。１～９は１トレンチから、10は２トレンチから出土した。



第９図　尾崎海岸遺跡９５－３区出土遺物

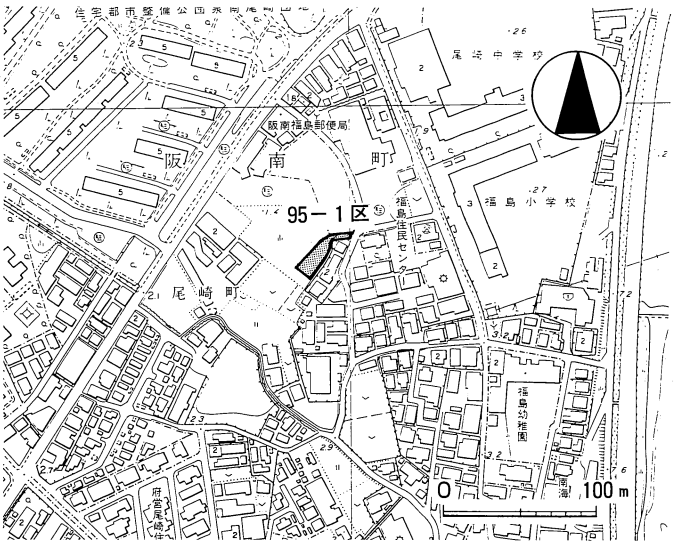
第２節　福島遺跡

福島遺跡は、１９９０年度の公共工事により、発見周知された遺跡である。本市の北端部、男里川の左岸に位置する。往年の調査では、遺構は検出されていないが、土師器、土師質土器、蛸壷等中世期の遺物が出土している。

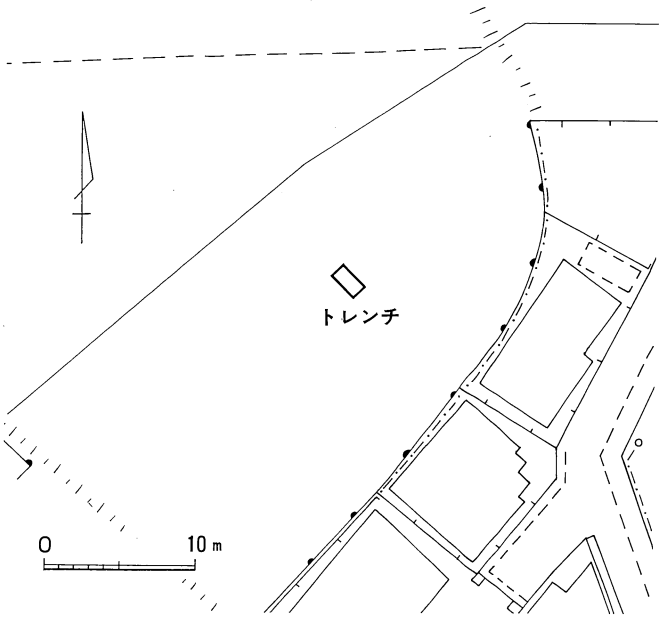
９５－１区

ａ．調査の概要（第10～12図）

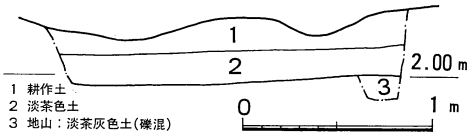
調査区は、本遺跡の南端部に位置する。調査は調査区内南端に１ｍ×２ｍのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層淡茶色土、第３層淡茶灰色土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は、近現代と考えられる摺鉢を第１層から検出した。



第10図　福島遺跡調査区位置図



第11図　福島遺跡９５－１区トレンチ位置図



第12図　福島遺跡９５－１区西側断面図

第３節　馬川遺跡

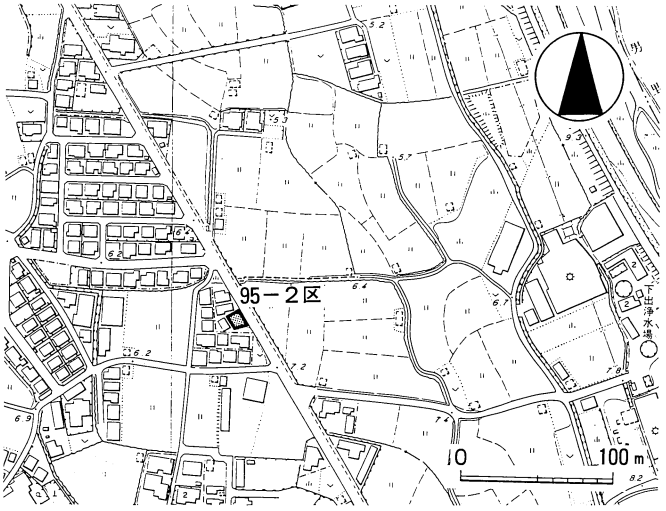
馬川遺跡は、本市の東端部を南北に流れる男里川が形成する扇状地に位置する。１９８７年度実施の分布調査によりサヌカイト片、土師器、須恵器等が採取され、縄文時代以降の遺跡の存在が想定されていた。既往の調査では、本遺跡の西部の調査区で蛸壷を焼いたと思われる土坑を、南部の調査区で複弁連華文軒丸瓦が出土している。

本年度は、下記以外の調査で、溝等の遺構を検出し、土師器、須恵器、黒色土器、磁器等の遺物が出土した。

９５－２区

ａ．調査の概要（第13～15図）

調査区は、本遺跡の北端部に位置する。調査は、調査区内中央部に３ｍ×２ｍのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層盛土以下、第２層褐灰色土、第３層灰濃茶色土、第４層暗茶濃灰色土、第５層黄

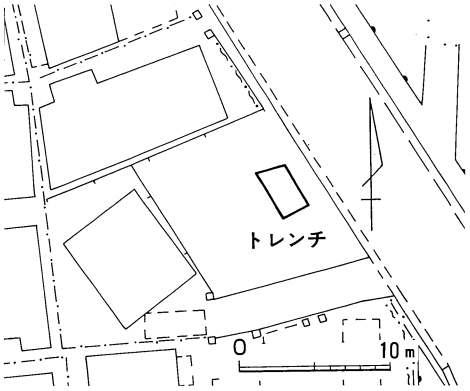


第13図　馬川遺跡調査区位置図

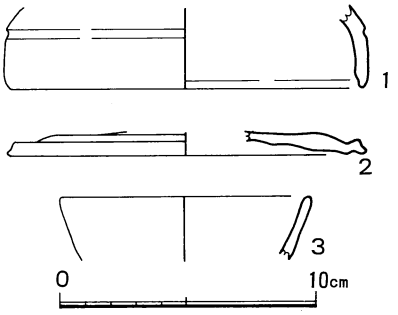
褐灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第２層から、土師器、須恵器、瓦器、第３層から土師器、須恵器、第４層より土師器が出土した。

b．遺物（第16図）

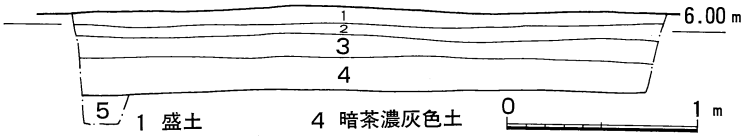
１・２は須恵器の坏蓋で、３は須恵器の坏身である。２は第２層、１・３は第３層から出土した。



第14図　馬川遺跡９５－２区トレンチ位置図



第16図　馬川遺跡９５－２区出土遺物



1 盛土
2 褐灰色土
3 灰濃茶色土
4 暗茶濃灰色土
5 地山：黄褐灰色粘土
第15図　馬川遺跡９５－２区東側断面図

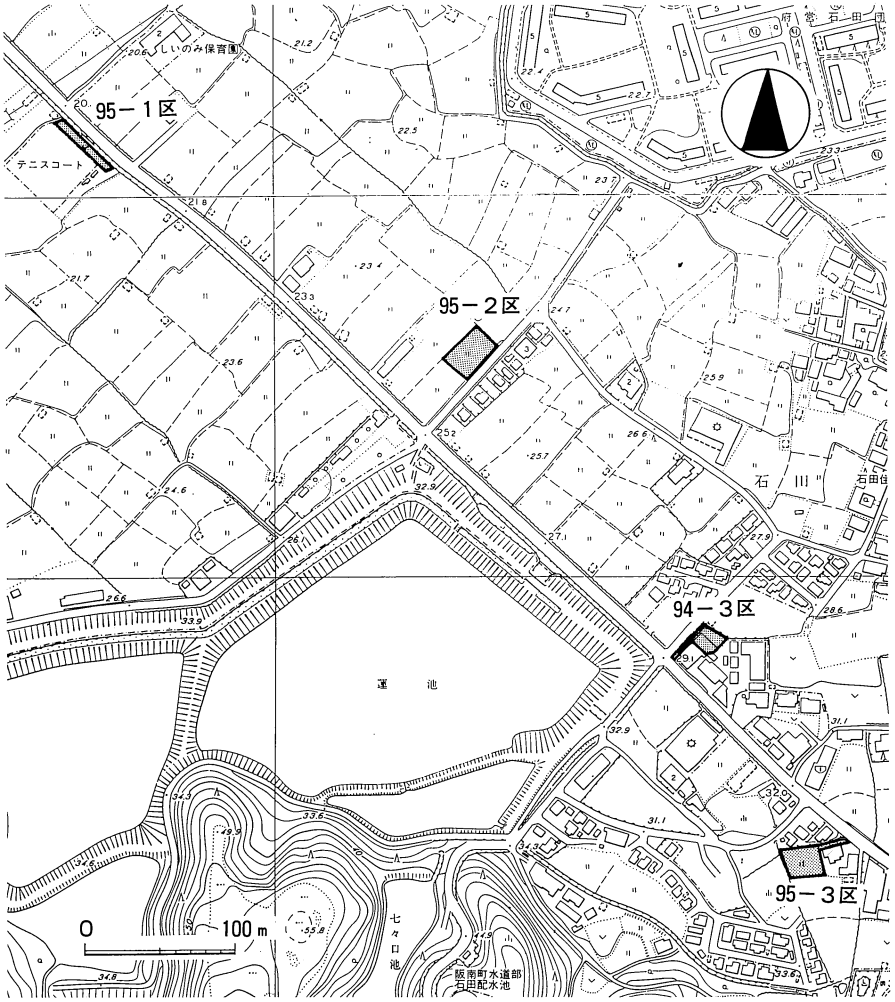
第４節　神光寺（蓮池）遺跡

神光寺（蓮池）遺跡は、本市の中央部に位置する。遺跡の特徴をあらわすものとしては、縄文時代草創期と思われる有茎尖頭器が採取され、弥生時代中期の方形周溝墓、中期の土器や石包丁が検出されている。また、遺跡の南部には、式内社波太神社があり、その神宮寺が明治時代まで存在していたことが知られている。

９４－３区

a．調査の概要（第17・18図）

本調査区は神光寺（蓮池）遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区のすぐ北側では、方形周溝墓が確認されている。調査は、1.5m×2.5mのトレンチを設定して実施した。第１層盛土、第２層耕作土以下の基本層序は、第３層明灰色土、第４層黄茶褐色粘土、第５層明黄白色礫混粘



第17図　神光寺（蓮池）遺跡調査区位置図

土の無遺物層であった。第４層の上面で溝を検出した。遺物としては、土師質土器が数点出土したが、小片のため図示には至らなかった。

b．遺構（第19図）

－溝－

南東から北西方向に延びる溝。幅約20cm、深さ15cmを呈する。埋土中から土師質土器が出土した。

９５－１区

a．調査の概要（第17・20図）

調査区は、本遺跡の中央部に位置する。調査は調査区内に９ヵ所のトレンチを設定し実施した。１～４・６・７トレンチの基本層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層灰色土、第４層灰茶色土、第５層黄灰色土、第６層淡茶灰色粘質土、第７層淡灰色粘質土、第８層灰褐色砂混粘質土の無遺物層であった。

b．遺構（第21図）

１トレンチからピット２・３トレンチからは溝、落ち込みを検出した。

－ピット１－

径60cm、深さ４cm、埋土は灰黄色土。

－ピット２－

径50cm、深さ４cm、埋土は灰黄色土。

－溝－

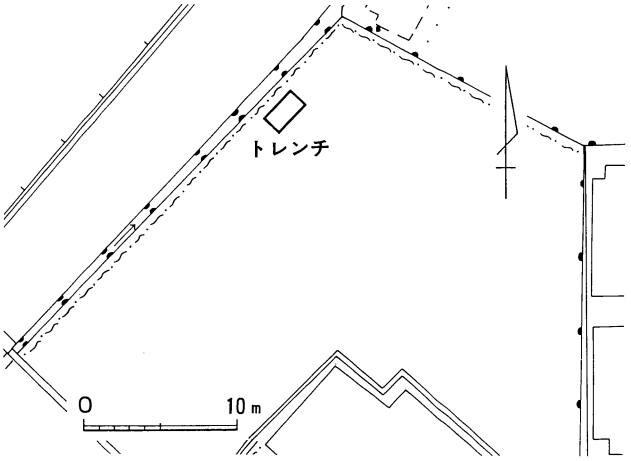
幅20cm、深さ15cm、埋土は灰黄色土。

－落ち込み－

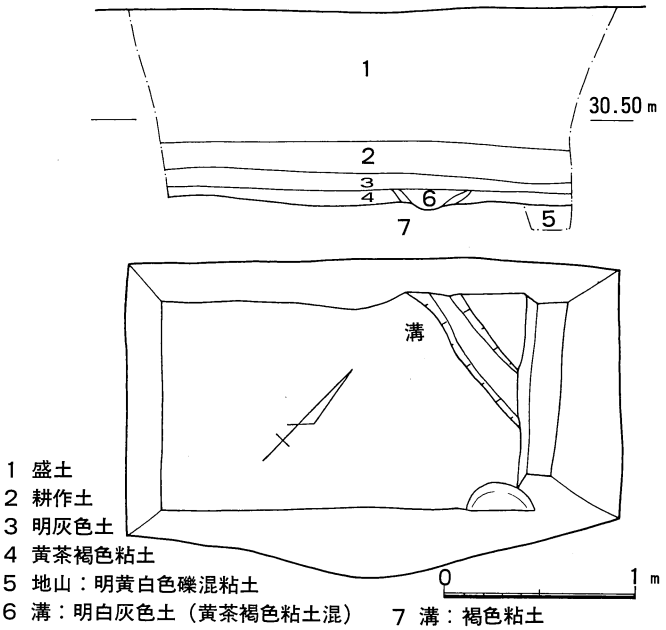
深さ20cm、埋土は、淡褐灰色土、淡灰黄色土で東にむかって落ちこんでいる。

c．遺物（第22図）

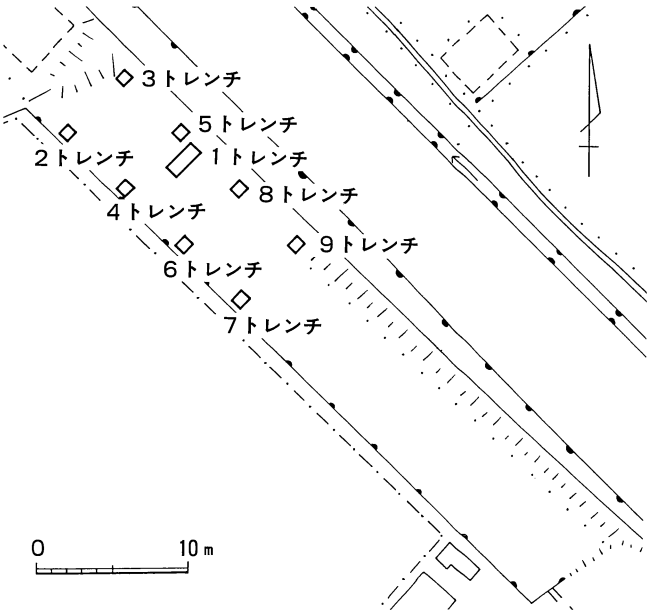
遺物は１トレンチの第３層から土師器、瓦器、第４層より須恵器、製塩土器、３トレンチの溝から土師器、５トレンチの第３層から土師器、磁器が出土したが、図化し



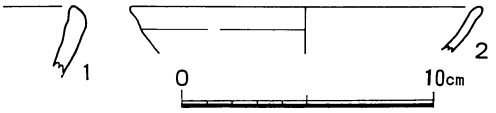
第18図　神光寺(蓮池)遺跡９４－３区調査区位置図



第19図神光寺(蓮池)遺跡９４－３区平面図・北側断面図



第20図 神光寺(蓮池)遺跡95－1区トレンチ位置図



第22図神光寺(蓮池)遺跡95－1区出土遺物

たのは以下の２点であった。

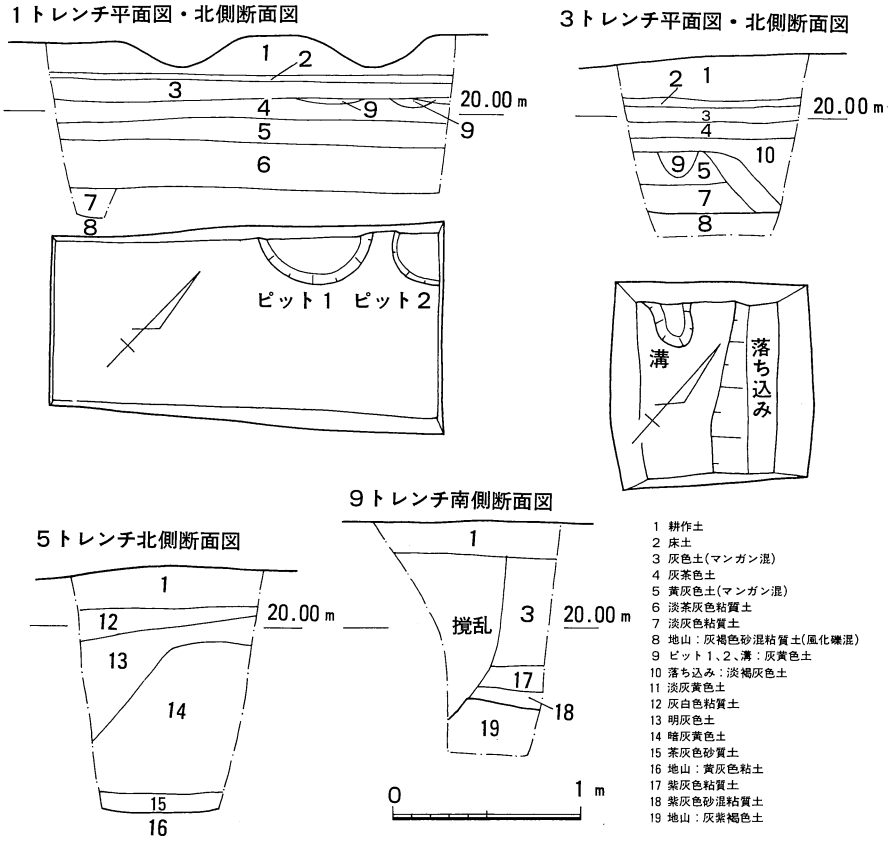
１は製塩土器の口縁部で１トレンチの第４層から、２は瓦器椀の口縁部で、１トレンチ第３層から出土した。

９５－２区

ａ．調査の概要

（第17・23・24図）

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内に３ヵ所のトレンチを設定し実施した。基本層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層黄灰茶色土、第４層淡黄灰色粘質土、第５層暗黒茶色粘土、第６層明黄灰色粘土の無遺物層であった。

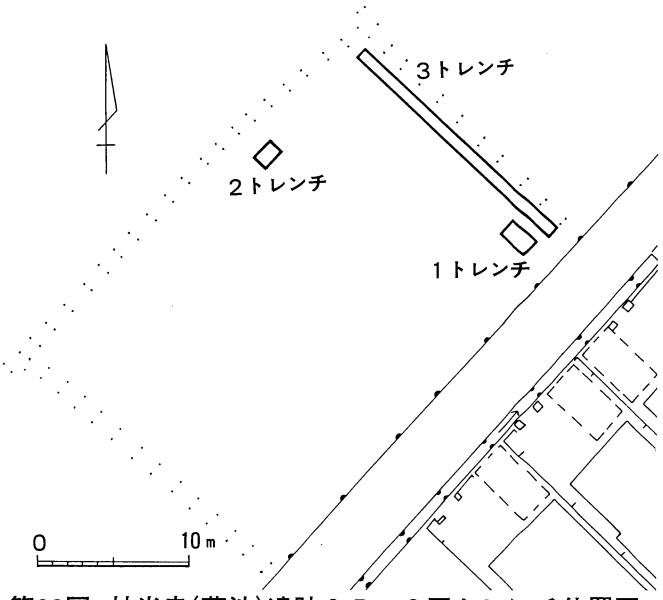


第21図　神光寺（蓮池）遺跡９５－１区平面図・断面図

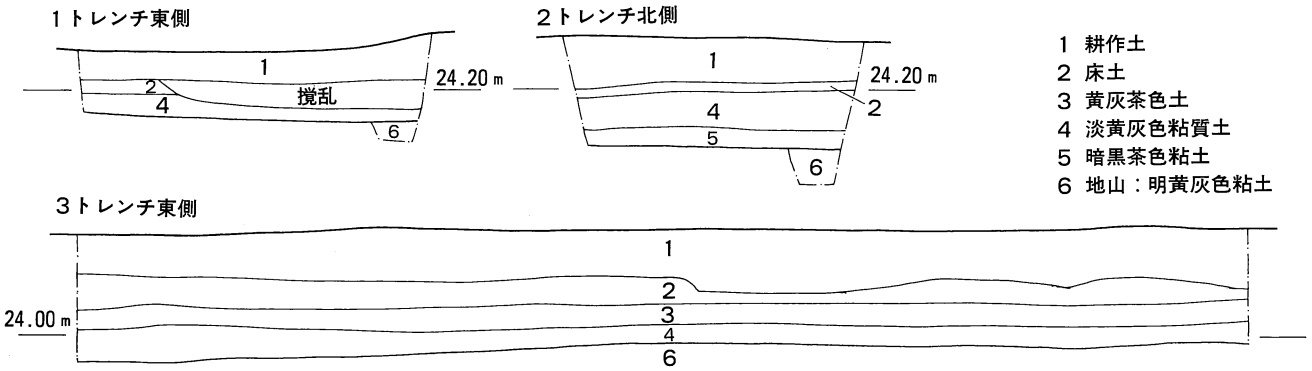
ｂ．遺物（第25図）

遺物は、１トレンチの第４層から土師器、瓦器、２トレンチの第３層から土師質土器、瓦器、３トレンチの耕作土からチャート、陶器、第３層から土師質土器、陶器、磁器、第４層から土師器、須恵器、瓦器、陶器、第５層から土師器、須恵器、瓦器、東播系須恵質こね鉢、土師質小皿が出土した。図化したのは以下のものであった。

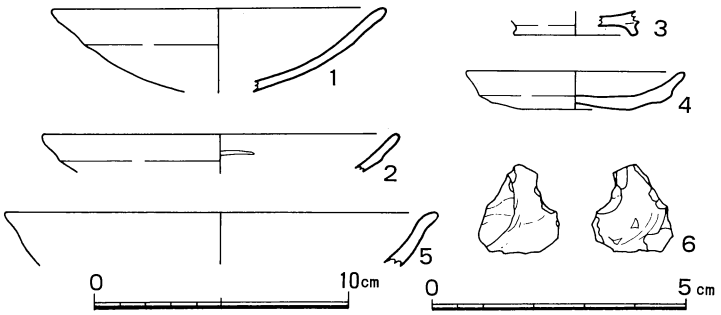
１～３は瓦器椀で、１・２は口縁部で３は高台部、４は土師質の小皿、５は陶器の



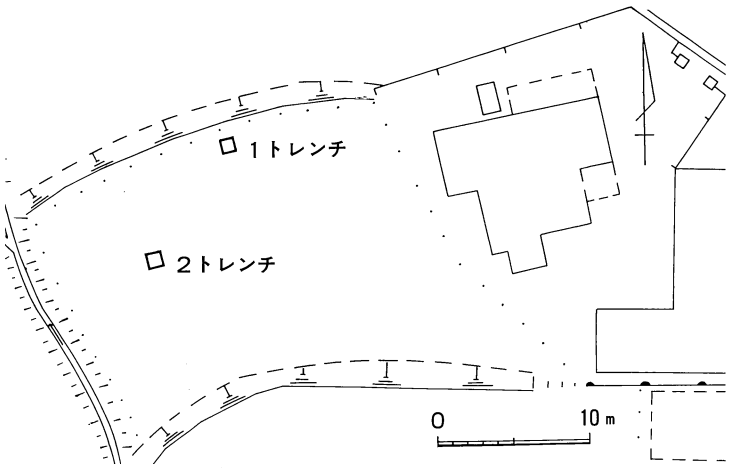
第23図　神光寺(蓮池)遺跡９５－２区トレンチ位置図



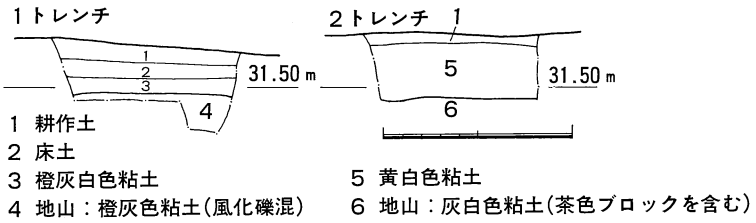
第24図　神光寺（蓮池）遺跡９５－２区１トレンチ東側・2トレンチ北側・３トレンチ東側断面図



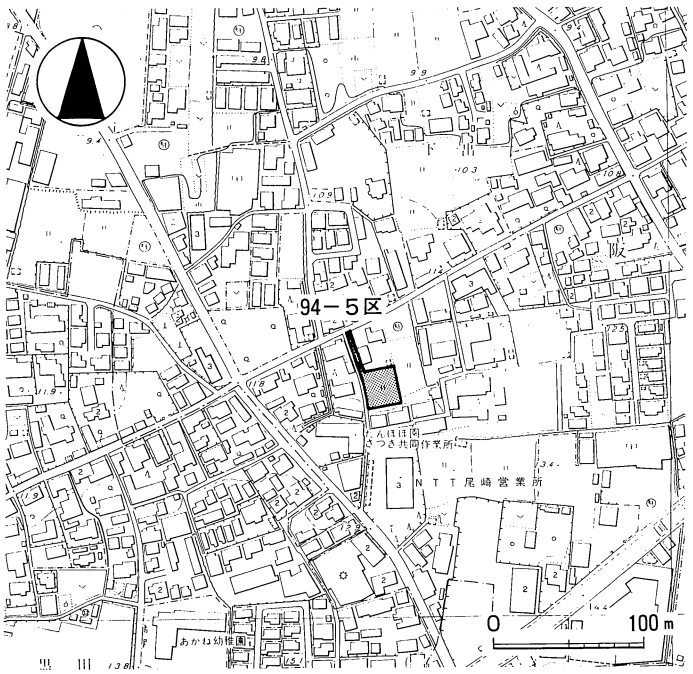
第25図　神光寺（蓮池）遺跡９５－２区出土遺物



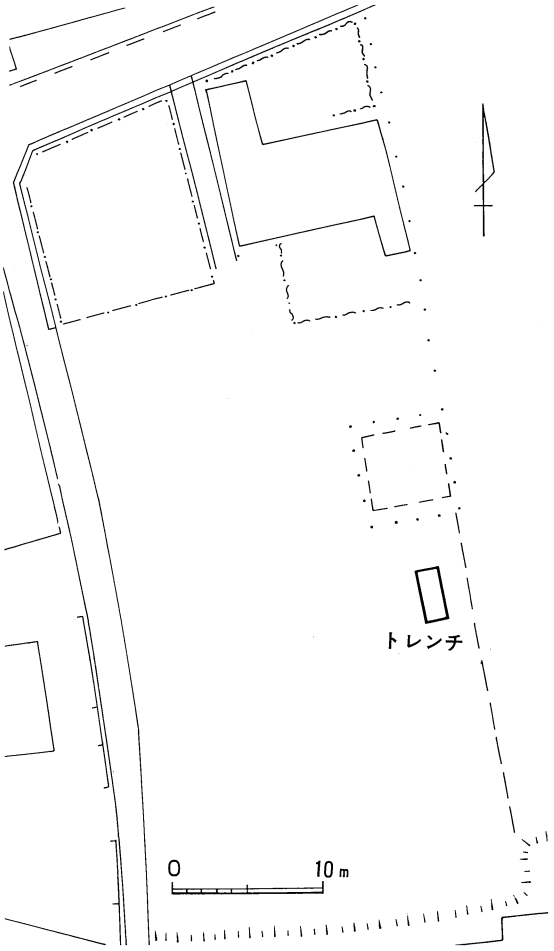
第26図　神光寺(蓮池)遺跡 95－3 区トレンチ位置図



第27図　神光寺（蓮池）遺跡９５－３区東側断面図



第28図　下出遺跡調査区位置図



第29図　下出遺跡９４－５区トレンチ位置図

椀の口縁部、６はチャートの剥片であった。１・２・５は３トレンチの第４層、３は２トレンチの第４層、６は４トレンチの耕作土から出土した。

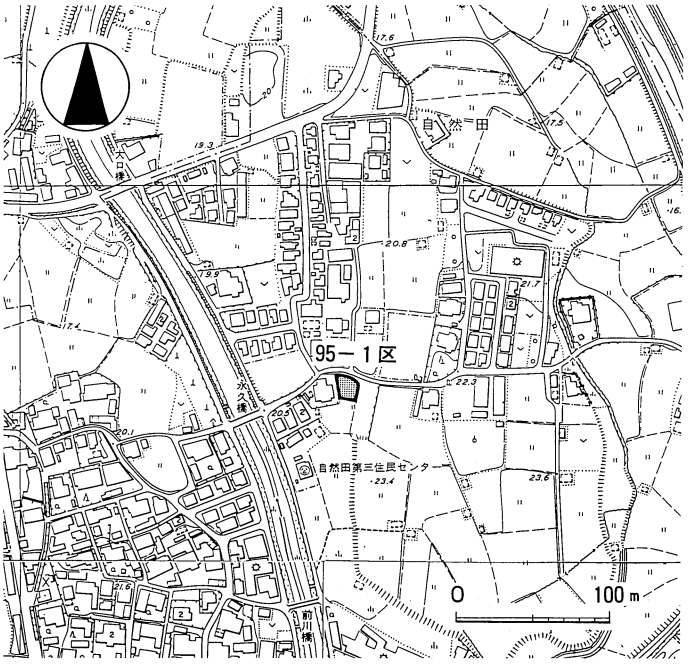
９５－３区

a．調査の概要（第17・26・27図）

調査区は本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内に１m×１mのトレンチを２ヵ所設定し行った。１トレンチの層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層橙灰白色粘土、第４層橙灰色粘土の無遺物層で、２トレンチの層序は、第１層耕作土、第２層黄白色粘土、第３層灰白色粘土の無遺物層であった。１・２トレンチ共に遺構は検出されず、１トレンチの第３層から弥生式土器とおもわれる遺物が出土したが、細片のため図化し得なかった。

第５節　下出遺跡

下出遺跡は、本市のほぼ中央部、馬川遺跡の南西部に位置し、現存する絵図等から近世期の下出村の村域とほぼ一致する。１９９１年度の民間開発工事に伴う確認調査により発見周知された遺跡である。この調査では瓦器埦を埋納する土坑墓をはじめとして、多数のピットが確認された。また、今回の調査区に隣接する調査では、中世期の遺物とともに鞴の羽口が出土している。

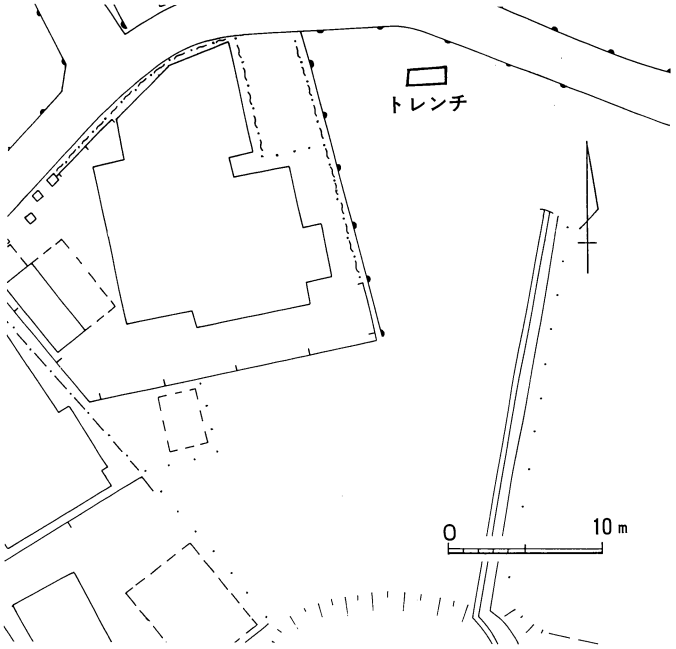


第30図　向出遺跡調査区位置図

９４－５区

ａ．調査の概要（第28・29図）

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は調査区内に1.3m×3.5mのトレンチを設定し行った。1.1mの盛土の下は、黄茶色礫混砂質土の無遺物層で、遺物包含層、遺構、遺物は確認されなかった。



第31図　向出遺跡９５－１区トレンチ位置図

第６節　向出遺跡

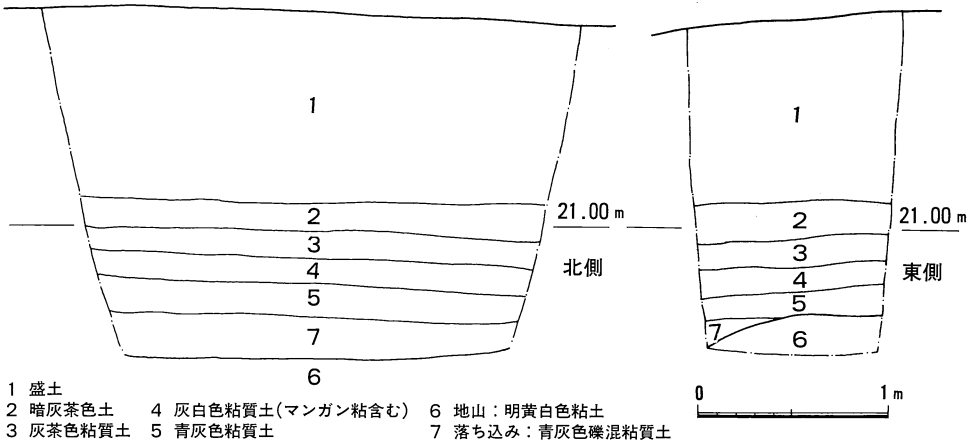
向出遺跡は、男里川支流の兎砥川と山中川に囲まれた段丘上に位置する。分布調査のおりに、縄文時代晩期と思われる土器片をはじめ、サヌカイト製石鏃、剥片、土師器、須恵器、瓦器等の遺物が多量に採取され、これまでの調査では、遺構としては溝、土坑、ピット等、遺物として須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器等を検出している。

９５―１区

ａ．調査の概要

（第30・31図）

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内北部に



第32図　向出遺跡９５－１区北・東側断面図

1.2m×2.6mのトレンチを設定し行った。基本層序は第１層盛土以下、第２層暗灰茶色土、第３層灰茶色粘質土、第４層灰白色粘質土、第５層青灰色粘質土、第６層明黄白色粘土の無遺物層であった。遺構は第６層上面で落ち込みを検出し、遺物は、第２層より須恵器、第３層より瓦質土器、土師質土器が出土したが、図化し得なかった。

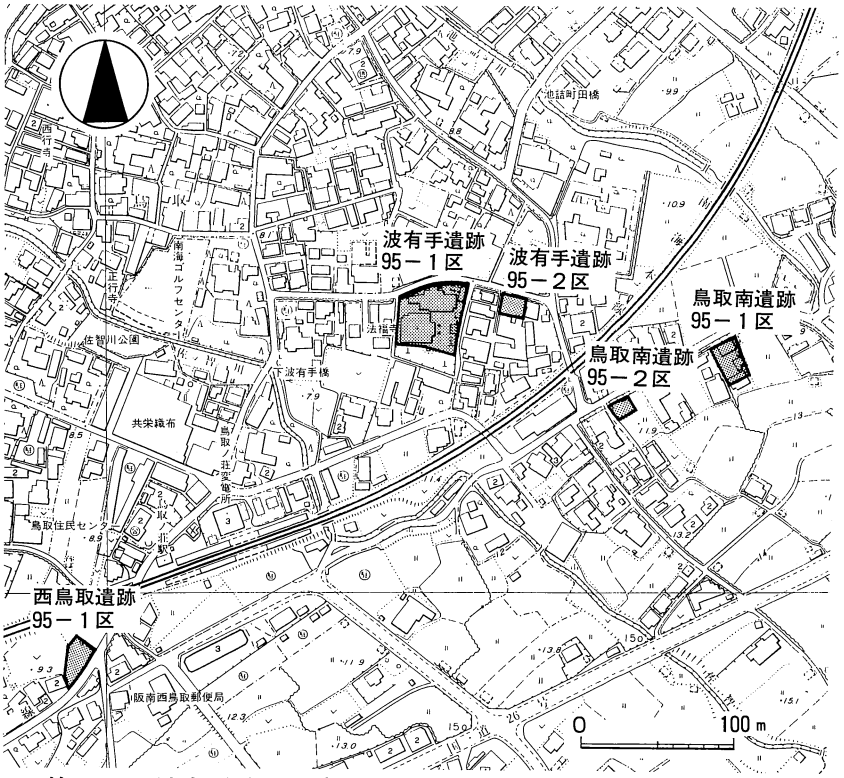
ｂ．遺構（第32図）

－落ち込み－

第６層上面で検出した。埋土が青灰色礫混粘質土で、深さは20cm以上を測る。

第７節　波有手遺跡

波有手遺跡は１９９２年度の阪南市立西鳥取公民館建設に伴う遺跡確認調査によって発見周知された遺跡である。この調査では、古代（奈良時代以降）、中世、近世の遺構と、それらに伴う土師器、須恵器、製塩土器、黒色土器、瓦器、蛸壷、土師質土器等数千点に及ぶ遺物を検出した。中でも、数多くの製塩土器と「海」、「水」、「省」、「佐土」等と記された奈良時代の土器の出土が特筆される。

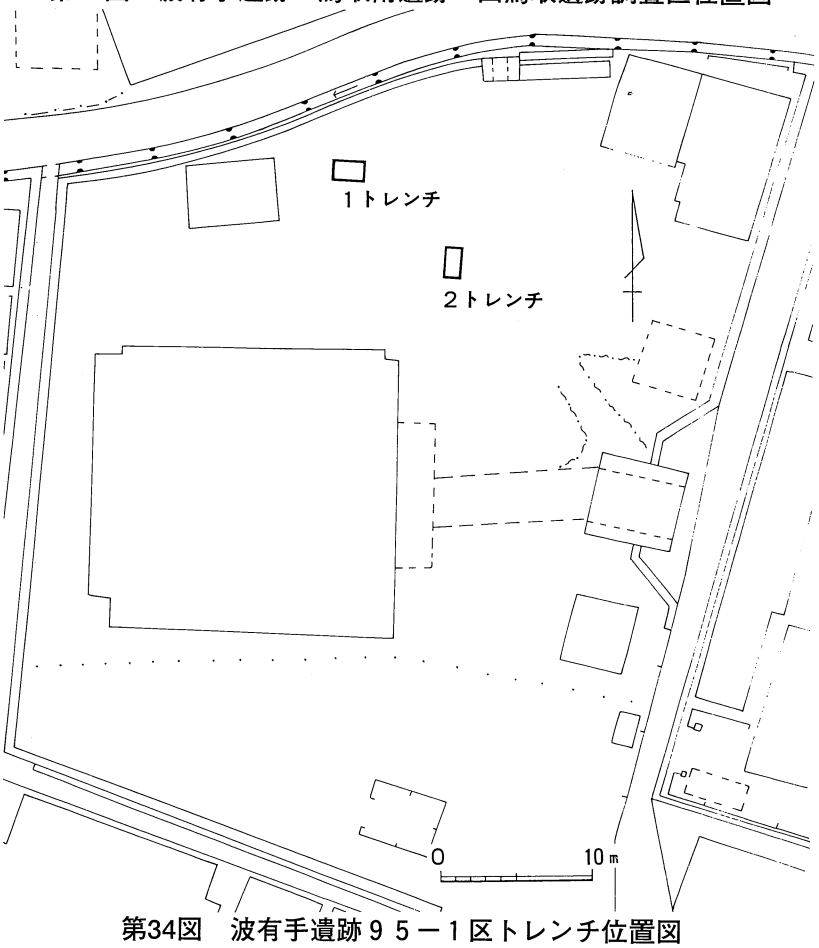


第33図　波有手遺跡・鳥取南遺跡・西鳥取遺跡調査区位置図

９５－１区

ａ．調査の概要（第33・34図）

調査区は、波有手遺跡の北端部に位置し、本遺跡が周知される契機となった９２－１区の調査区に隣接する。調査は調査区内に1.5m×２m及び1.2m×２mのトレンチを設定し、前者を１トレンチ、後者を２トレンチとして実施した。基本層序は、灰茶色土、黄茶灰色土、明茶色土、暗茶黒色土、淡茶灰色土の順であった。１トレ



第34図　波有手遺跡９５－１区トレンチ位置図

ンチでピットを検出した。両トレンチから須恵器をはじめ、陶器、磁器、土師質土器等と共に大量の近世の瓦が出土した。また、１トレンチからはヘラ記号が記された蛸壷が出土している。なお、この調査後、浄化槽埋設時に立会調査を実施したが、この際には、前述の９２－１区における調査で奈良時代の墨書土器等が出土した遺物包含層の存在を確認し、この層から同時代の須恵器、土師器が出土した。

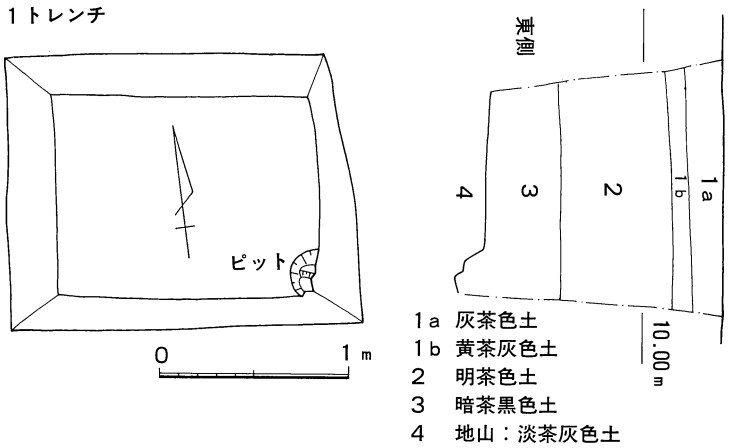
ｂ．遺構（第35図）

－ピット－

１トレンチの南東角、淡茶灰色土上面で検出した。深さ15cm、埋土は暗茶黒色土であった。

ｃ．遺物（第36図）

１・２は土師質で、前者は壷の口縁部、後者は管状土錘である。３・４は磁器で、３は染め付けの碗の口縁部、４は壷の口縁部である。５は小型の道具瓦の瓦当、６は軒平瓦で、共に近世期以降のものと思われる。１・２・５は２トレンチから、３・４・６が１トレンチから出土した。

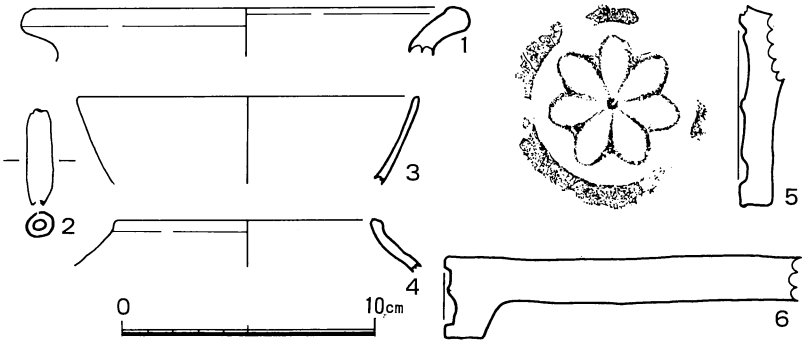


第35図　波有手遺跡９５－１区１トレンチ平面図・東断面図

９５－２区

ａ．調査の概要（第33・37図）

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内南西部に1.1m×1.1mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層灰茶色土、第３層黄茶灰色土、第４層明茶色土、第５層暗茶黒色土、第６層淡茶灰色土の無遺物層であった。遺構は、土坑を検出し、遺物は調査区内の表土から磁器を採取したのみであった。

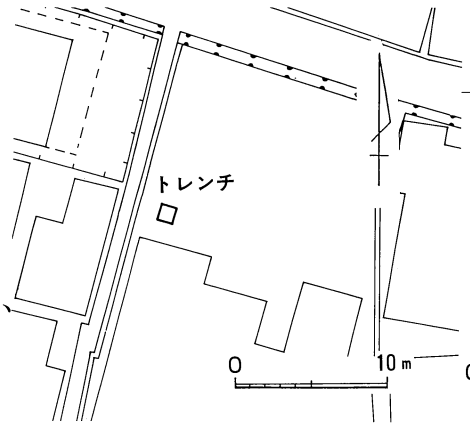


第36図　波有手遺跡９５－１区出土遺物

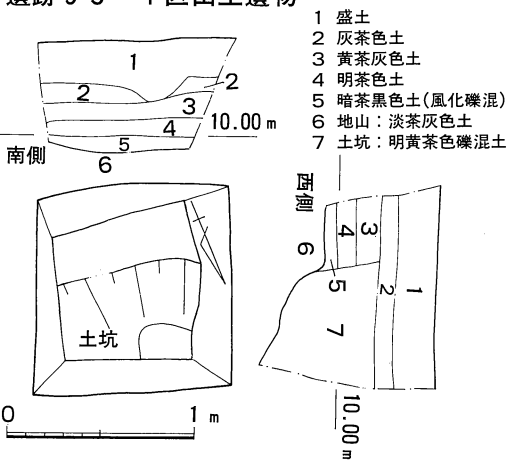
ｂ．遺構（第38図）

－土坑－

第３層上面で検出した。径80cm以上、深さは55cm、埋土は明黄茶色礫混土で、遺物は含まれていなかった。



第37図　波有手遺跡９５－２区
トレンチ位置図



第38図　波有手遺跡９５－２区
平面図・南、西側断面図

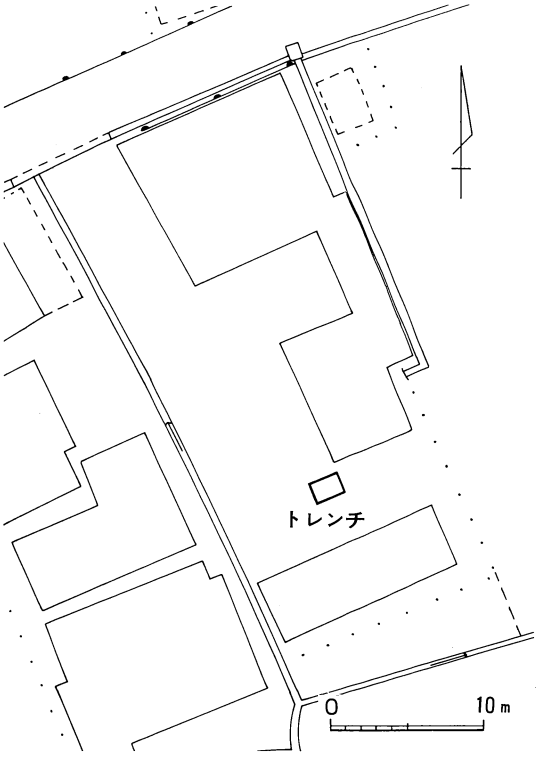
第８節　鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、１９８８年度に実施された分布調査によって発見周知され、神光寺（蓮池）遺跡の北西部に隣接する位置にある。既往の調査では、弥生時代の後期から中世期にかけての土坑、溝等の遺構を検出し、弥生式土器、土師器、須恵器、瓦器等の遺物が出土している。

９５－１区

ａ．調査の概要（第33・39図）

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は調査区南部に1.2m×２mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐灰色砂質土、第４層明茶黄色土の無遺物層であった。遺構は、落ち込みを検出し、遺物は第２層から須恵器、磁器、第３層から土師器を出土したが、細片の為、図化し得なかった。

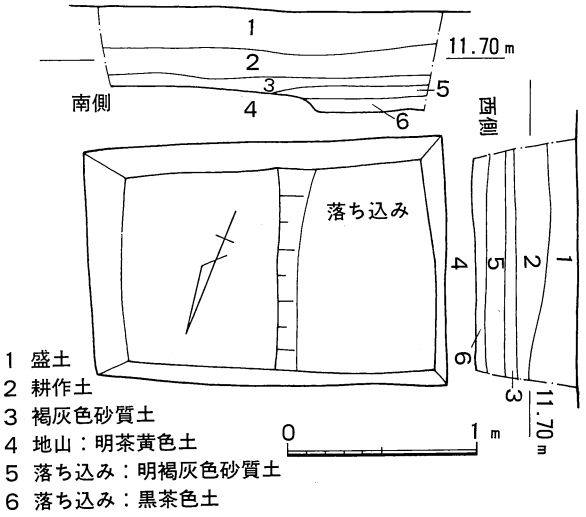


第39図　鳥取南遺跡９５－１区トレンチ位置図

ｂ．遺構（第40図）

－落ち込み－

第４層上面で検出した。埋土は明褐灰色砂質土、黒茶色土で、深さは20cm以上であった。



第40図　鳥取南遺跡９５－１区平面図・南、西側断面図

９５－２区

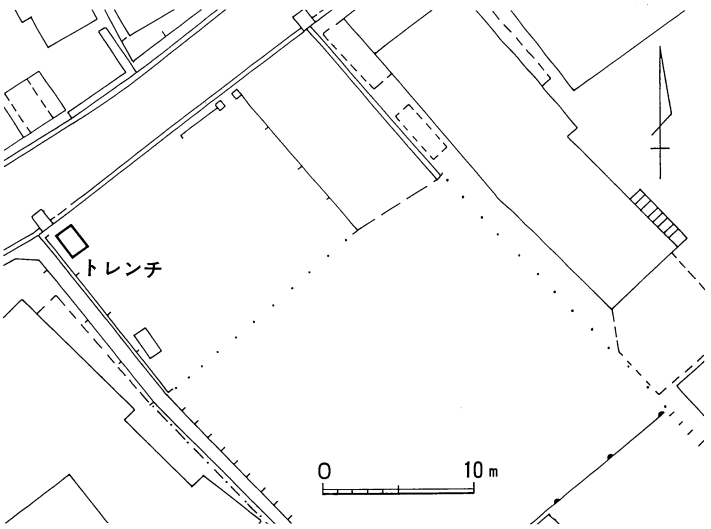
ａ．調査の概要（第33・41図）

調査区は、本遺跡の北端に位置する。調査は調査区内の北西部に1.3m×1.8mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層灰茶色土、第３層暗灰茶色土、第４層淡黒灰色土、第５層暗茶灰色土、第６層黄色粘土の無遺物層であった。

ｂ．遺構（第42図）

－土坑－

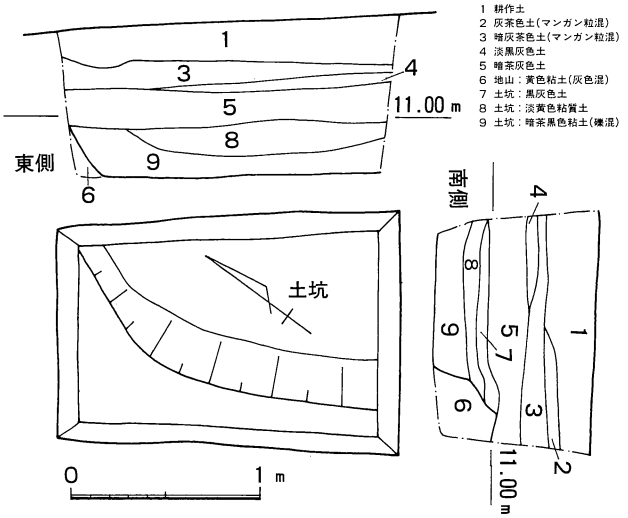
第６層上面で土坑の一部を検出した。遺物は土師器、須恵器、瓦器、蛸壷、二次焼成を受けた平瓦、土錘、瓦質土器、莎入り焼土塊が出土し、中世期のものと思われる。



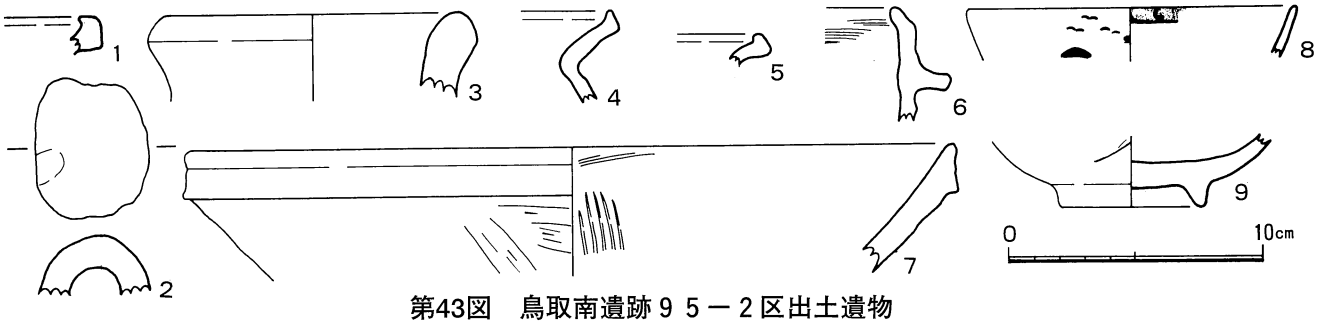
第41図　鳥取南遺跡９５－２区トレンチ位置図

c．遺物（第43図）

第１層より磁器、第３～５層から須恵質土器、土師質土器、莎入り焼土塊等が出土した。１は須恵質土器の甕、３～６は土師質土器で、３は蛸壷、４・５は甕か羽釜の口縁部である。６は羽釜で口縁部が内湾している。２は大型の管状土錘、７は瓦質摺鉢で土坑より、８・９は磁器碗で第１層より出土した。



第42図　鳥取南遺跡９５－２区平面図・東、西側断面図



第43図　鳥取南遺跡９５－２区出土遺物

第９節　西鳥取遺跡

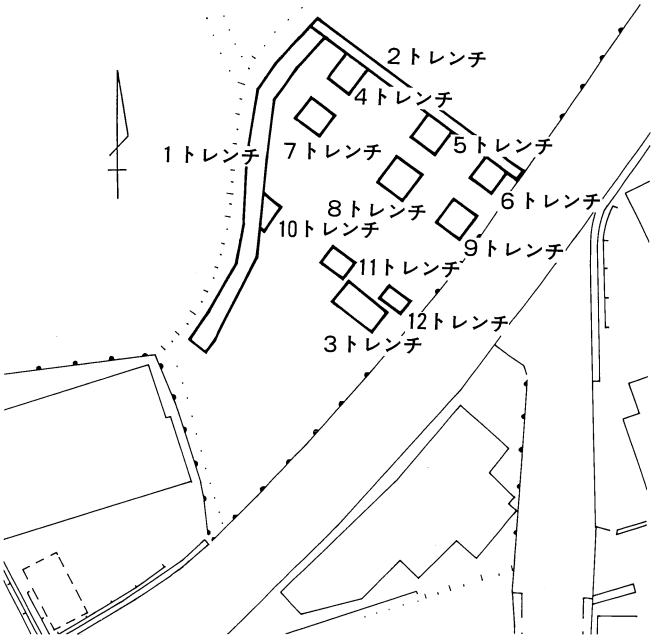
西鳥取遺跡は、鳥取南遺跡の北西部に隣接する位置にあり、鳥取南遺跡と同様１９８８年度に実施された分布調査によって発見周知された。既往の調査では、ピット、溝等の遺構、須恵器、土師器、中世期の土器（瓦器、蛸壷等）や瓦等の遺物が検出されている。

９５－１区

a．調査の概要（第33・44図）

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は１～12トレンチを設定し行った。

基本層序は、第１層耕作土、第２層床土以下、第３層明黄灰色粘土の無遺物層であった。遺物は、耕作土より土師器、瓦、陶磁器、床土より土師器、須恵器、蛸壷、瓦、暗灰色砂質土より土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、青磁等が出土した。



第44図　西鳥取遺跡９５－１区トレンチ位置図

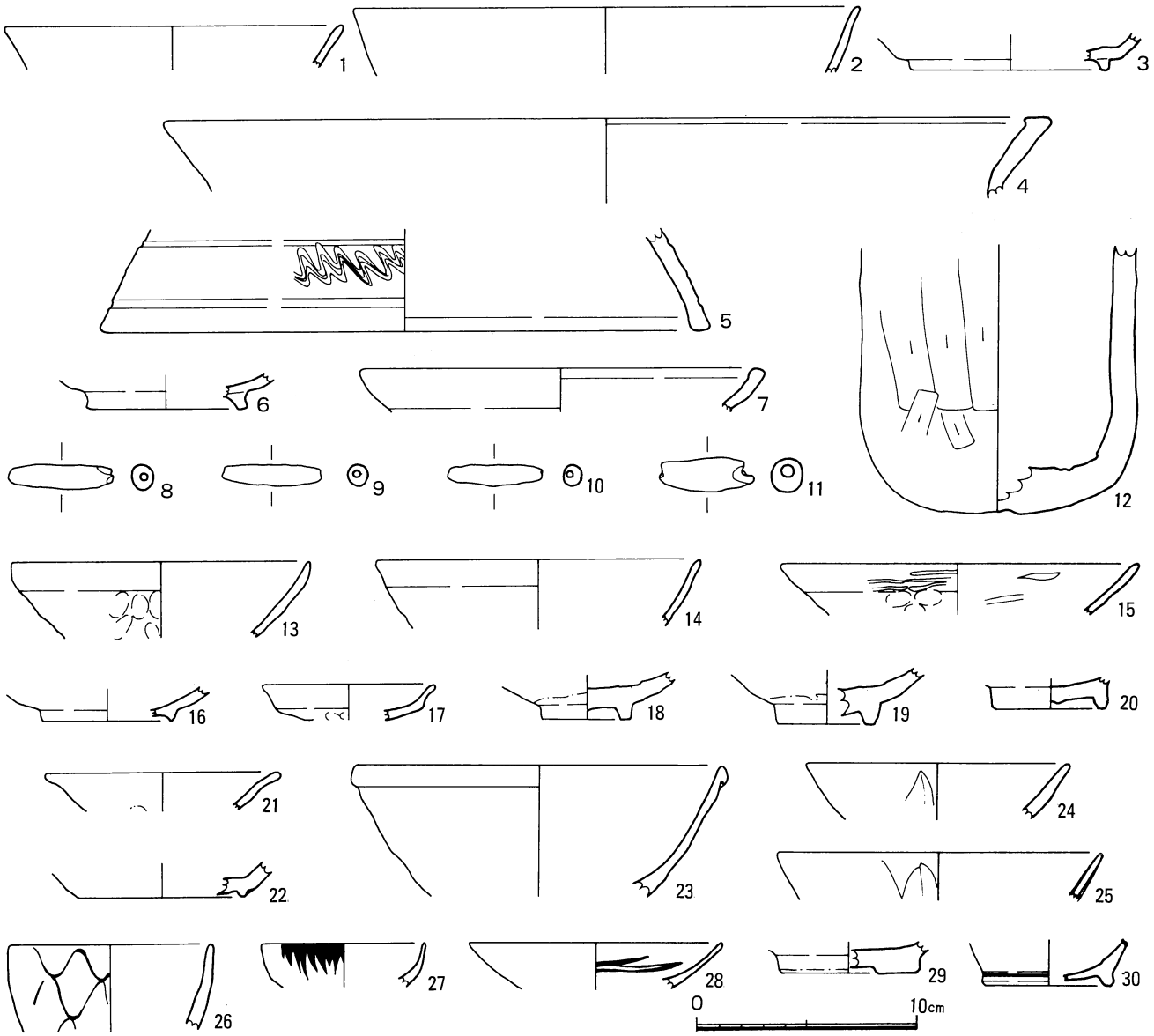
b．遺構（第45図）

遺構は、２・４・５トレンチを除いたすべてのトレンチで落ち込みのような形跡を確認し、最も深いところで地山面から60cmを呈した。埋土は、暗灰色砂質土、明灰白色砂、暗灰茶色砂質土、灰色砂質土、暗茶灰色土であった。

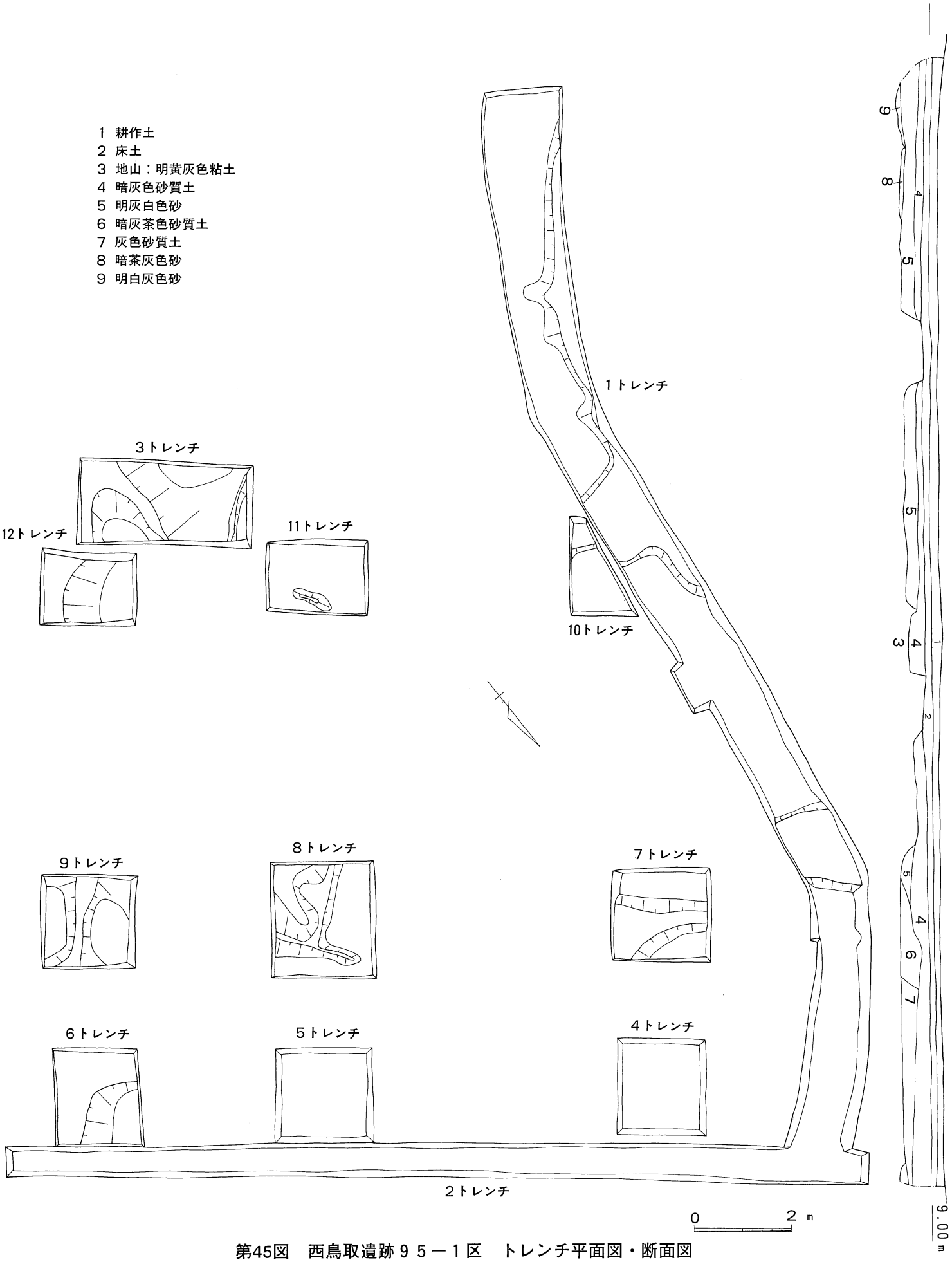
c．遺物（第46図）

１～５は須恵器で、１・２は坏身の口縁部、３は坏身の底部、４は甕の口縁部、５は器台の脚部、６・７は土師器で、６は皿の底部、７は甕の口縁部、８～11は土師質管状土錘、12は土師質蛸壷の底部、13～17は瓦器で13～15は椀の口縁部、16は椀の底部、17は小皿の口縁部、18～22は陶器で、18～20は椀の高台部、21は皿の口縁部、22は皿の高台部、23は白磁碗の口縁部、24・25は青磁碗の口縁部、26～30は伊万里の染め付けで、26は碗の口縁部、27は仏飯器の口縁部と思われる。28は皿の口縁部、29は皿の高台部、30は瓶の底部と思われる。

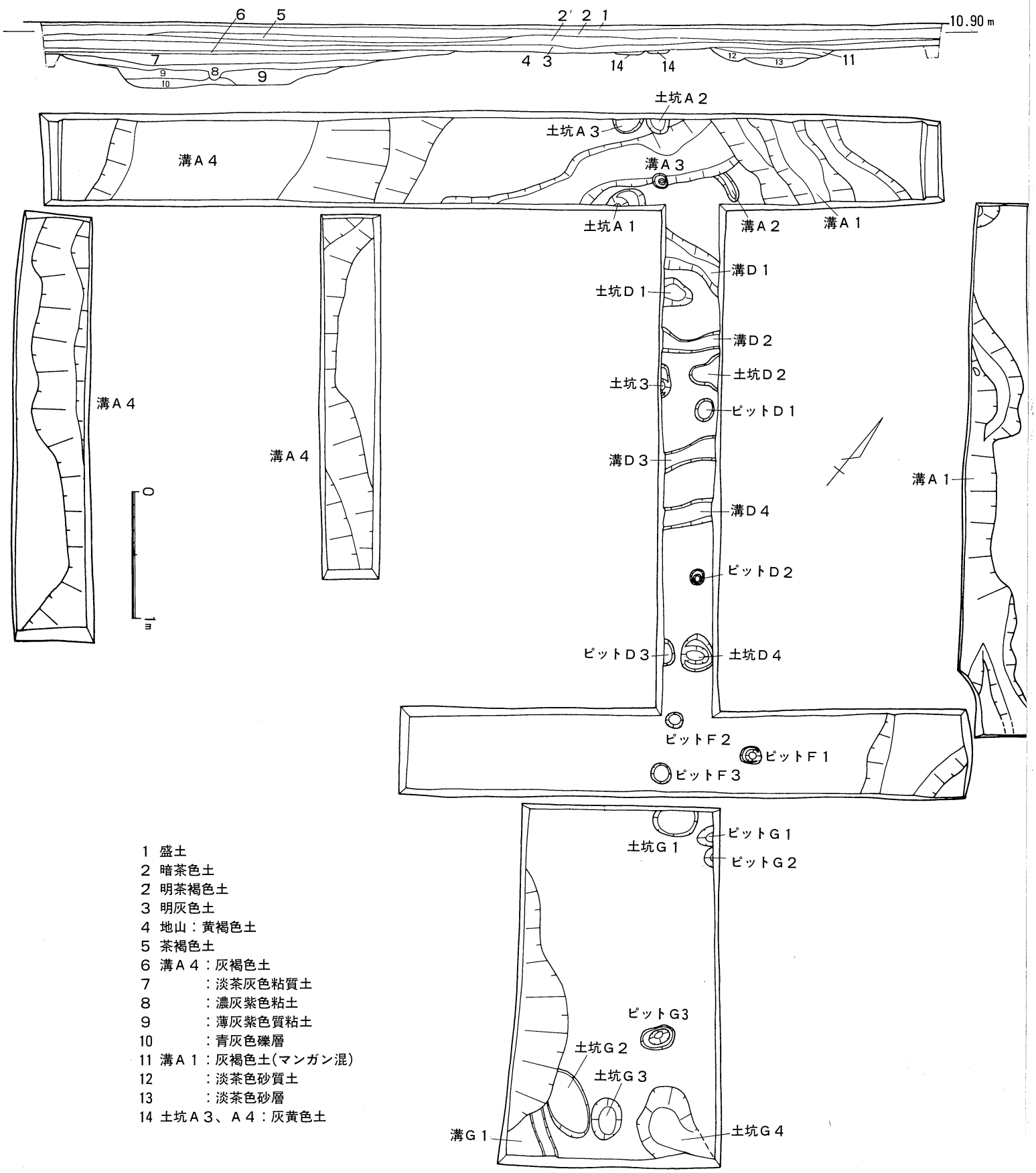
床土から20・27、暗灰茶色砂質土から18、灰色砂質土から２・５・19・21・28・29、明灰白色砂から１・14、暗灰色砂質土から３・４、６～13、15～17、22～25、30が出土した。



第46図　西鳥取遺跡９５－１区出土遺物



第45図　西鳥取遺跡９５－１区　トレンチ平面図・断面図

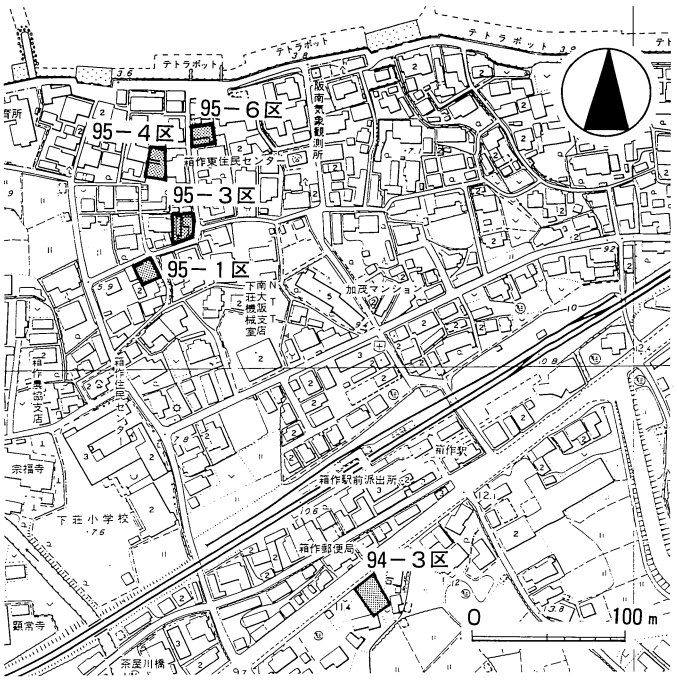


1 盛土
2 暗茶色土
2 明茶褐色土
3 明灰色土
4 地山：黄褐色土
5 茶褐色土
6 溝Ａ４：灰褐色土
7 ：淡茶灰色粘質土
8 ：濃灰紫色粘土
9 ：薄灰紫色質粘土
10 ：青灰色礫層
11 溝Ａ１：灰褐色土(マンガン混)
12 ：淡茶色砂質土
13 ：淡茶色砂層
14 土坑Ａ３、Ａ４：灰黄色土

第49図　箱作今池遺跡９４－３区　トレンチ平面図・北側断面図

第１０節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は、市域の北西部に位置し、茶屋川とその支流飯ノ峯川が形成する扇状地に拡がる。既往の調査では、遺跡の海岸に近い北側から主に中世期のものが、南側からは、古墳時代～古代末期頃の遺構、遺物が確認されている。

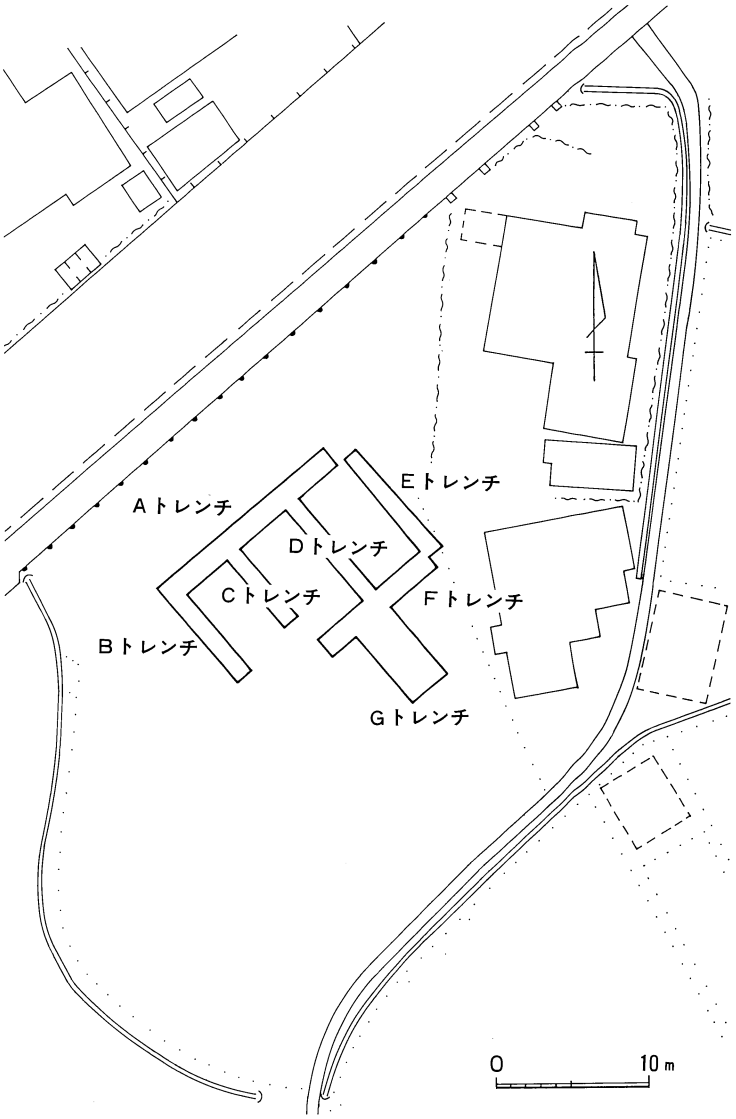


第47図　箱作今池遺跡調査区位置図

９４－３区

ａ．調査の概要（第47・48図）

本調査区は箱作今池遺跡のほぼ中央部、本市が進める土地区画整理事業地内に位置する。建築予定建物の基礎部分について、北側から任意にＡ～Ｇトレンチとして設定し、調査を実施した。盛土以下の基本層序は、暗茶色土、明茶褐色土、明灰色土、黄褐色土の無遺物層であった。遺構としては、これまでの調査で確認されている本遺跡内を縦断している、幅５m程度の比較的大きな溝をはじめとして、幅数cm～1.5m程度の溝を数条、ピット等を検出した。遺物は須恵器、土師器、瓦器等が検出された。下記のように、出土遺物のほとんどは古代末期～中世中期のものであり、付近の遺物包含層の堆積もこの頃と想定される。



第48図　箱作今池遺跡９４－３区トレンチ位置図

b．遺構（第49図）

－溝Ａ１－

Ａトレンチの東側部分からＥ・Ｆトレンチの東端に南北方向にのびる溝。幅約２m、深さ30cmを呈する。埋土の最下層が砂層であることからかなりの流水があったものと思われる。遺物としては、土師器、瓦器、土師質土器が出土した。このことから中世期のものと思われる。

－溝Ａ４－

Ａトレンチ西端部からＢ・Ｃトレンチをかすめ、Ｇトレンチの西端に延びる。上述の本遺跡内を縦断している溝と同一のものと思われる。遺物は埋土の最上層から数点の瓦器、土師質土器が検出されたのみで、埋土の下層から遺物は確認されておらず、明確な時期は分からないが、中世期以前には、ほぼ埋没していたと思われる。

－溝Ａ２・３、Ｄ１～Ｄ４、Ｇ１－

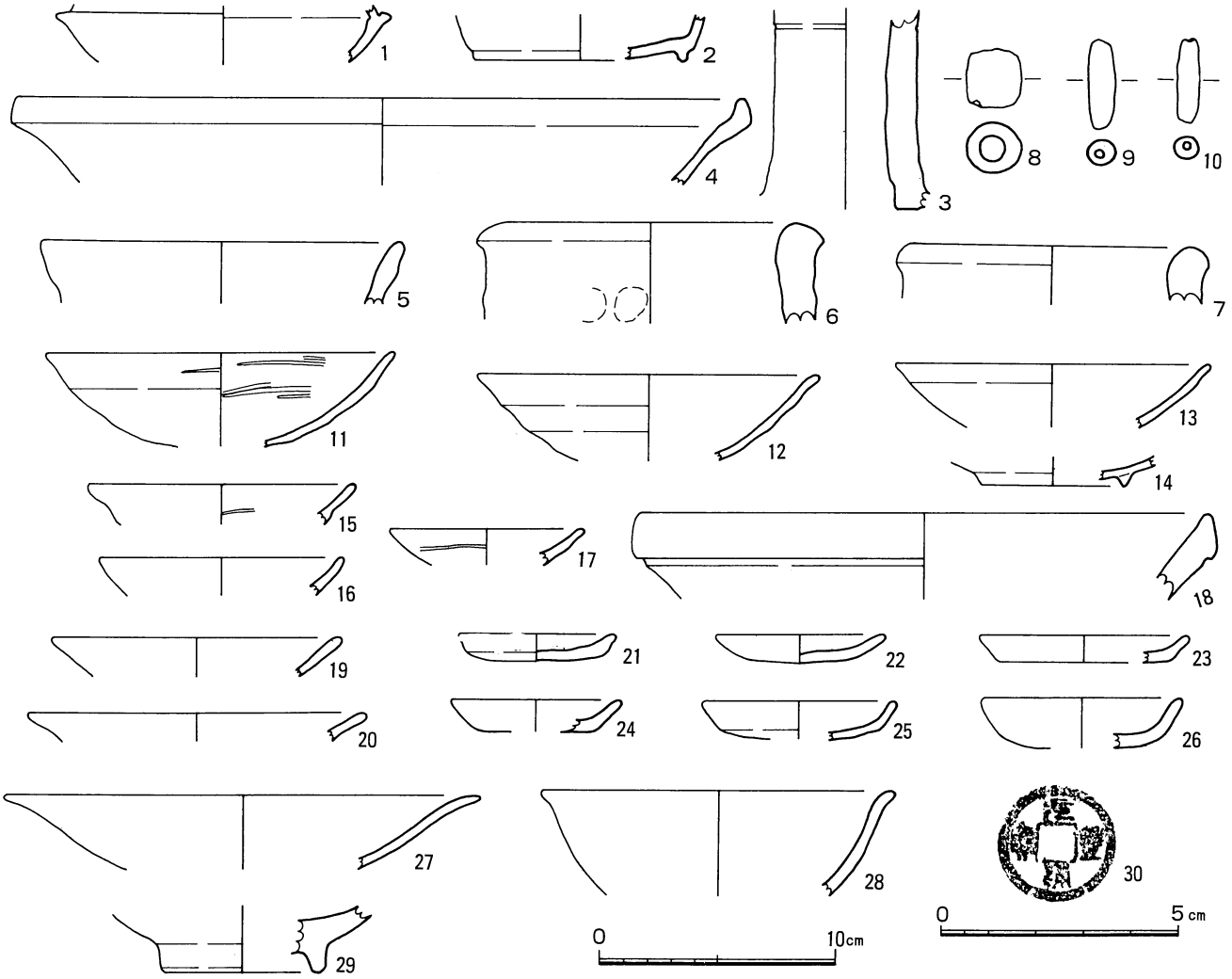
いずれも幅１m以下、深さ数cmのもので、鋤溝等耕作に伴うものと思われる。

－ピット群－

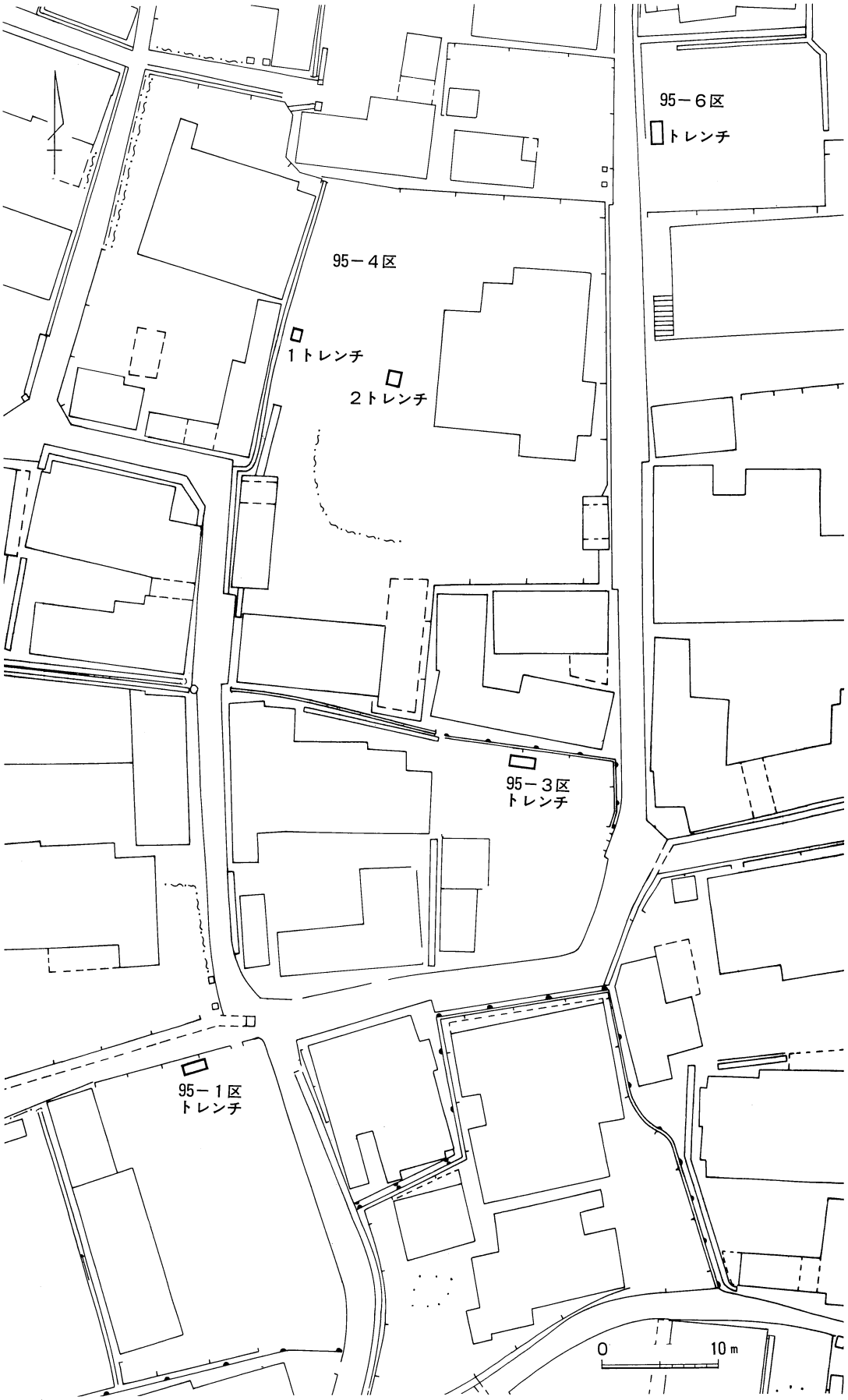
径数十cm程度のものを検出したが、調査トレンチ内では明確に並ぶものが確認できなかった。

－土坑Ａ１～Ａ３、Ｄ１～Ｄ３、Ｇ１～Ｇ４－

Ａ・Ｄ・Ｇトレンチで検出されたが、いずれも検出面からの深さが数cmのものであった。



第50図　箱作今池遺跡９４－３区出土遺物



第51図　箱作今池遺跡　９５－１区、９５－３区、９５－４区、９５－６区トレンチ位置図

c．遺物（第50図）

１～３は須恵器、４は東播系須恵質土器のこね鉢。５は製塩土器の口縁部と思われる。６・７は土師質の蛸壺、８～10は土師質の管状土錘である。11～14は瓦器椀。15～17は瓦器皿。18は瓦質土器の鉢。19～26はいずれも土師質の皿であるが、19はいわゆる白土器である。27は白磁、28・29は青磁碗で、いずれも舶載品である。30は「元豊通宝」。初鋳が１０７８年の北宋銭である。以上の遺物は、すべて包含層中からの出土で、上述の遺構から図化できる遺物は出土しなかった。

９５－１区

a．調査の概要（第51図）

調査区は、本遺跡の北部、現在の海岸線より約120mの地点に位置する。調査は、調査区の北部に１m×２mのトレンチを設定し実施した。基本層序は、第１層盛土、第２層暗茶灰色砂質土、第３層灰茶色砂質土、第４層淡黄灰色粘質土、第５層黄茶色土の無遺物層であった。遺構は、第４層上面で溝１を検出した。遺物は、第１層から蛸壷、磁器、第２層から土師質土器、第３層から土師器、瓦器が出土した。

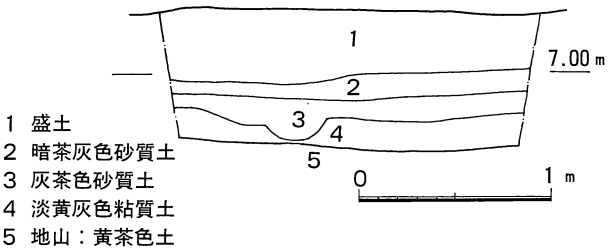
b．遺構（第52図）

－溝－

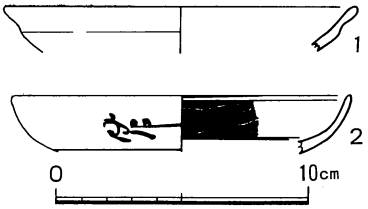
幅30cm、深さ15cmで、第４層上面で検出され、埋土が第３層であった。

c．遺物（第53図）

１は瓦器椀の口縁部、２は磁器の皿の口縁部で、１は第４層、２は第２層から出土した。



第52図　箱作今池遺跡９５－１区北側断面図

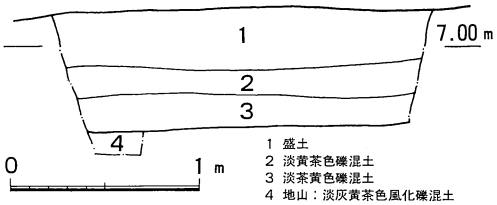


第53図　箱作今池遺跡９５－１区出土遺物

９５－３区

a．調査の概要（第51・54図）

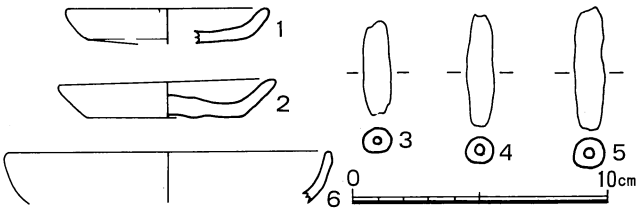
調査区は９５－１区の北部に位置する。調査は調査区内に１m×２mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層淡黄茶色礫混土、第３層淡茶黄色礫混土、第４層淡灰黄茶色風化礫混土の無遺物層であった。遺構は検出されなかった。遺物は、第２層淡黄茶色礫混土から土師器、土師質管状土錘、磁器が出土した。



第54図　箱作今池遺跡９５－３区北側断面図

b．遺物（第55図）

遺物は、第２層淡黄茶色礫混土から土師器、土師質管状土錘、磁器が出土したが、図化し得たのは、以下の６点であった。１・２は土



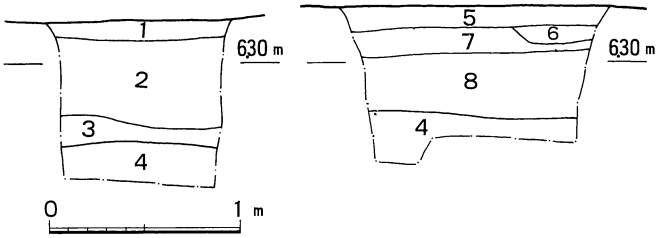
第55図 箱作今池遺跡９５－３区 出土遺物

師質の小皿、３～５土師質管状土錘、６は磁器の染め付け碗の口縁部である。

９５－４区

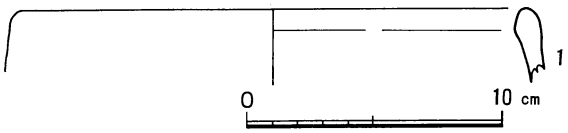
ａ．調査の概要（第51・56図）

本調査区は箱作今池遺跡の北端部に、海岸線より50m余りの地点に位置する。調査は、調査区内に0.8m×１m及び1.2m×1.2mのトレンチを設定して実施した。基本層序は、図示の通りである。両トレンチから遺構は検出されなかった。遺物は、炮烙、瓦等が出土した。



1 明黄茶色土
2 暗茶色土(黄色粘土ブロック含む)
3 濃茶色土
4 地山：茶色礫混土(風化礫多量に含む)
5 暗茶色土
6 白色砂層(貝殻・丸石含む)
7 淡茶色砂質土
8 茶色土(風化礫含む)

第56図　箱作今池遺跡９５－４区
１トレンチ西側断面図　２トレンチ東側断面図



第57図　箱作今池遺跡９５－４区出土遺物

ｂ．遺物（第57図）

図示した遺物は土師質炮烙１点のみである。１トレンチから出土した。

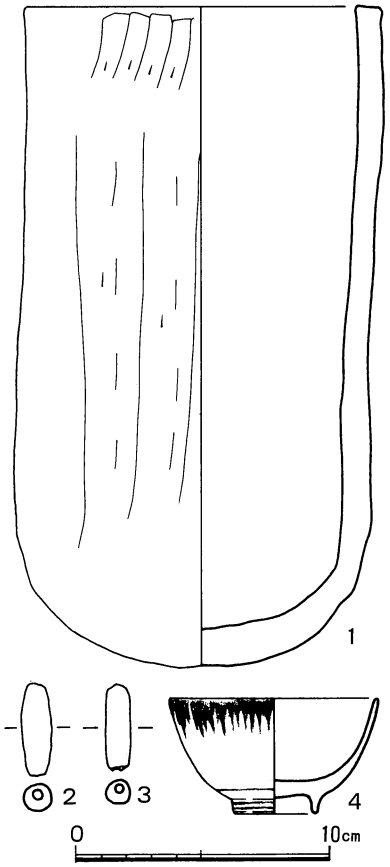
９５－６区

ａ．調査の概要（第51図）

調査区は９５－４区北西部に位置する。調査は、調査区内に１m×２mのトレンチを設定し実施した。現在の地表面より１m程度掘削したが、近年の盛土であった。

ｂ．遺物（第58図）

遺物は、調査区において、蛸壷、瓦、土師質管状土錘、莎入り焼土塊等を表採した。図化し得たのは以下の４点であった。１は蛸壷でほぼ完形で先の丸くなっているタイプのものである。２・３は土師質管状土錘、４は磁器の染め付けの碗であった。



第58図　箱作今池遺跡
９５－６区出土遺物

第１１節　田山遺跡

田山遺跡は、市域の平野部から海岸部へ拡がる遺跡である。田山遺跡は、本市の北西部の海岸段丘に位置する。既往の調査によると、縄文時代の石鏃から近世期の陶器・磁器にいたるまで様々な遺物が出土している。特質を揚げてみると、奈良時代としては、溝、井戸等の遺構を検出し、須恵器、土師器等の生活雑器に混じって、製塩土器、円面硯、墨書土器等が出土している。

中世になると住居跡、蛸壷・土錘を焼いたと考えられる遺構、土師器等の生活雑器や、蛸壷、土錘等の漁撈遺物に混じって輸入陶磁器（青磁、白磁等）が出土している。

９４－４区

ａ．調査の概要（第59・60図）

調査区は田山遺跡の北端部で、海岸段丘の縁辺部に位置する。調査は調査区の西部に１ｍ×2.8mのトレンチを設定して行った。基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層灰色砂混シルト、第４層黄灰色砂混シルト、第５層黄灰色粘質土、第６層黄色砂混粘質土の無遺物層であった。

ｂ．遺構（第61図）

－溝－

第５層上面で検出した。幅30cm以上、深さ10cm以上を測る。埋土は黄灰色粘土であり、土坑１と同じ遺構とも考えられる。須恵器、瓦器、製塩土器、炭化物が出土した。

－土坑１－

第５層上面で検出した。深さ15cm以上を測る。不定形土坑である。第５層上面で検出され、埋土は黄灰色粘土である。土師器、瓦器、製塩土器が出土した。５は瓦器小皿である。

－土坑２－

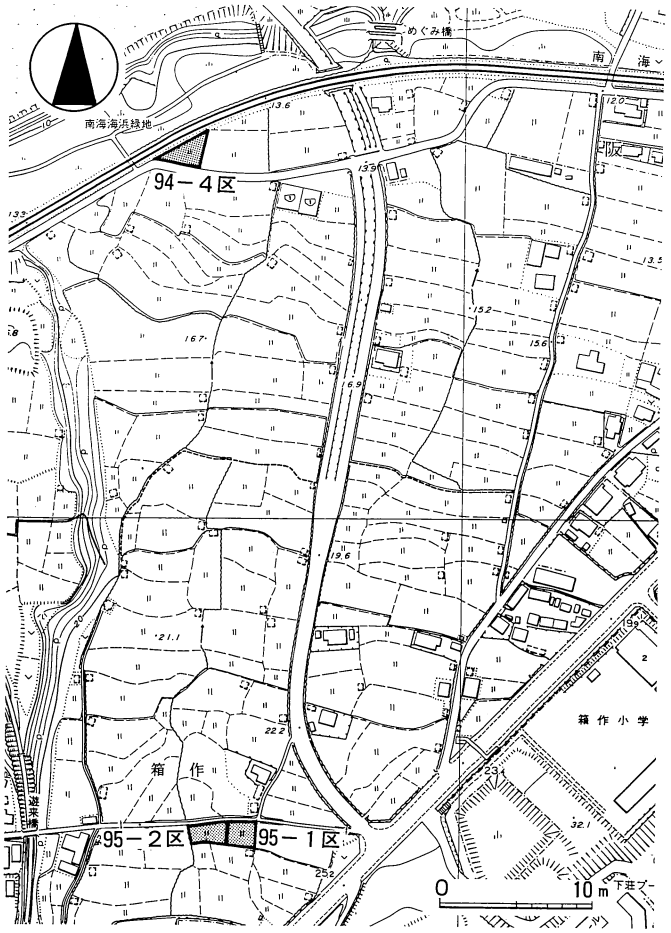
幅95cm、深さ３cm以上を測る。第６層上面で検出され、埋土は淡灰色砂混シルトである。遺物は出土しなかった。

－土坑３－

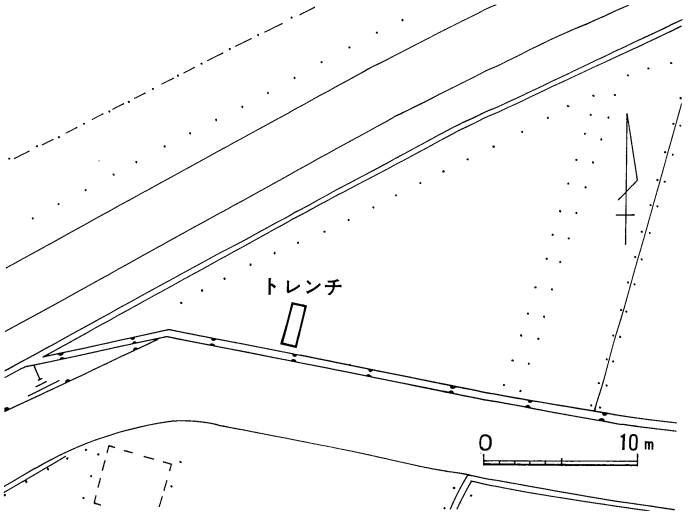
幅20cm、長さ60cm以上を測る。第６層上面で検出され、埋土は土坑２と同じ淡灰色砂混シルトである。遺物は出土しなかった。

－ピット１－

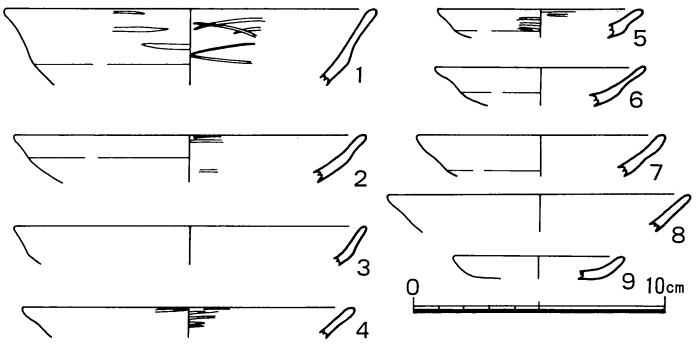
径20cm、深さ８cmである。第５層上面で検出した。埋土は黄灰色粘土で土師器、瓦器が出土したが図示し得なかった。



第59図　田山遺跡調査区位置図



第60図　田山遺跡９４－４区トレンチ位置図



第62図　田山遺跡９４－４区出土遺物

－ピット２－

径40cm、深さ８cmである。第５層上面で検出した。埋土は黄灰色粘土で、２の瓦器埦の口縁部が出土した。

ｃ．遺物（第62図）

遺物は第２層より磁器、第３層より土師質土器、白土器、莎入焼土塊が出土し、第４層より須恵器、瓦器、製塩土器、蛸壺、莎入焼土塊、炭化物、第５層より土師質土器、須恵質土器、瓦器が出土した。図化し得たのは以下の遺物であった。１～７は瓦器で１～４は埦の口縁部、５～７は小皿の口縁部である。８・９は土師質土器で８は埦の口縁部、９は小皿の口縁部である。８は第３層、３・６・７は第４層、１・９は第５層から出土した。

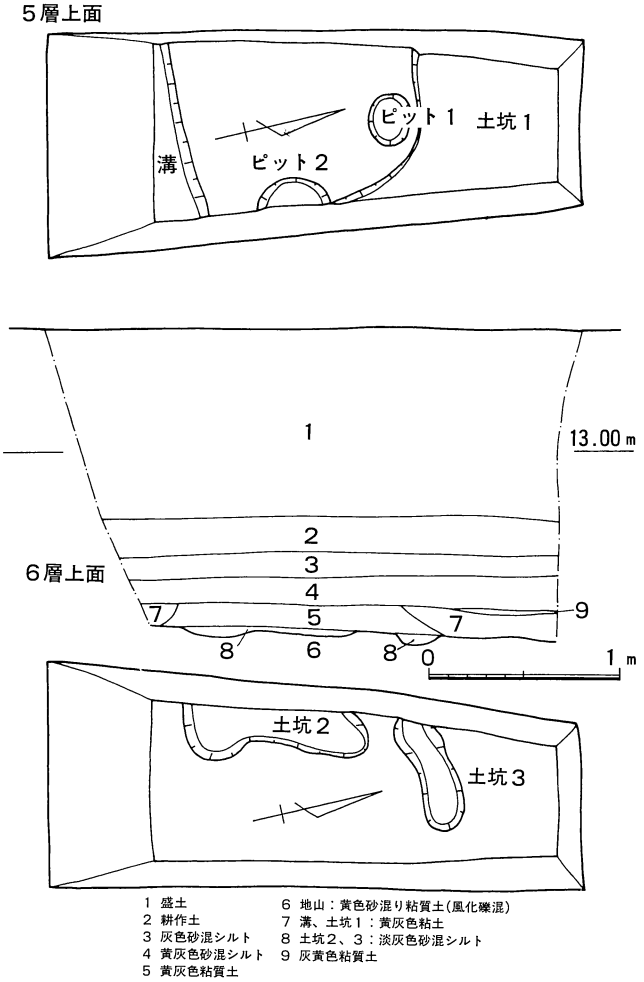
９５－１区

ａ．調査の概要（第59・63・64図）

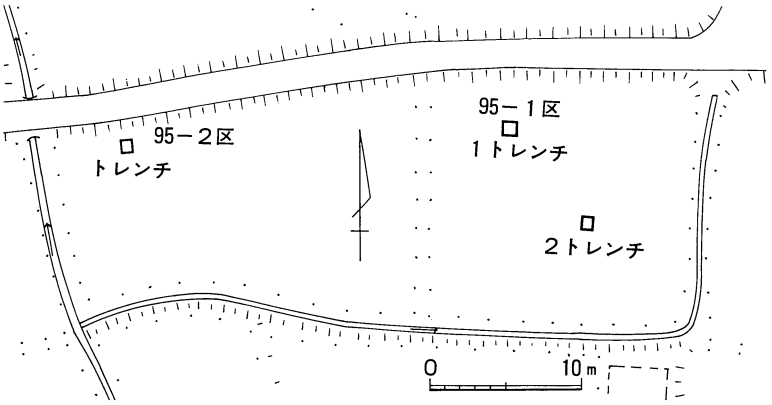
調査区は、本遺跡の南西部に位置する。調査は調査区内に１ｍ×１ｍのトレンチを２ヵ所設定して実施した。基本層序は、第１層耕作土、第２層床土以下、第３層灰褐色砂質土、第４層明黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されなかった。

ｂ．遺物（第65図）

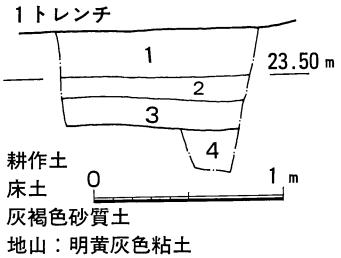
遺物は第３層より、土師器、須恵器、瓦器、製塩土器、磁器等が出土したが、図化し得たのは、瓦器埦の底部の１点のみであった。



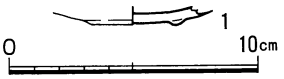
第61図　田山遺跡９４－４区平面図・西側断面図



第63図　田山遺跡９５－１区・９５－２区トレンチ位置図



第64図　田山遺跡９５－１区１トレンチ北側断面図

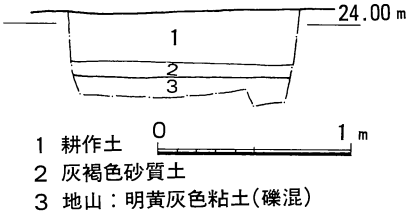


第65図　田山遺跡９５－１区出土遺物

９５－２区

ａ．調査の概要（第59・63・66図）

調査区は、９５－１区に隣接する場所に位置する。調査は、調査区内に１ｍ×１ｍのトレンチを設定し実施した。基本層序は、第１層耕作土、第２層灰褐色砂質土、第３層明黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第１層より、近現代と考えられる摺鉢が出土した。



第66図　田山遺跡９５－２区
東側断面図

第４章　まとめ

以上、今年度の調査の概要について触れた。ほとんどの調査が十数m²～数m²程度の極めて小規模な調査ばかりであったが、西鳥取遺跡（９５－１区）と箱作今池遺跡（９４－３区）で比較的まとまった調査を実施した。この２地区の調査について下記に述べ、まとめにかえたい。

前者の調査では、不定形の落ち込みを確認した。この落ち込みは、粘土採掘坑ではないかと考えている。また、特筆事項としては、白磁・青磁の碗が出土していることが揚げられる。舶載陶磁器については、市内では田山遺跡や箱作今池遺跡等の海浜部に位置する遺跡で出土しているが、当遺跡では初めてのものである。当遺跡の性格を考える上でのひとつの資料となろう。

また、箱作今池遺跡（９４－３区）の調査では、同遺跡を縦断する溝が確認された。本文中でも触れたように、この溝からは遺物が検出されておらず、その時代や性格は明らかではない。同遺跡内では、区画整理事業に伴い（財）大阪府埋蔵文化財調査研究センターが実施しているが、この調査でも遺跡内を縦横に走る幅十数mの溝が確認されており、それらとの関連性を検討する必要がある。これについては、同センターの報告を待ちたい。

まとめとしては、非常に簡単雑駁になった。冒頭にも述べたように私たちが実施している行政発掘調査は、最低限の記録保存のための調査であるため、そのほとんどが極めて小規模なものになっている。しかし、文化財保護の観点からは、今後もこれらの「点」の調査を地道に続けていく必要があると考えている。

尾崎海岸遺跡９５－１区トレンチ全景（西より）

福島遺跡９５－１区トレンチ全景（東より）

尾崎海岸遺跡９５－３区トレンチ全景（東より）

馬川遺跡９５－２区トレンチ全景（北より）

図版2

神光寺（蓮池）遺跡９４－３区トレンチ全景（西より）

神光寺（蓮池）遺跡９５－１区１トレンチ全景（東より）

神光寺（蓮池）遺跡９４－３区溝北側断面

神光寺（蓮池）遺跡９５－２区３トレンチ全景（南より）

神光寺（蓮池）遺跡９５－３区１トレンチ全景（西より）

向出遺跡９５－１区トレンチ全景（西より）

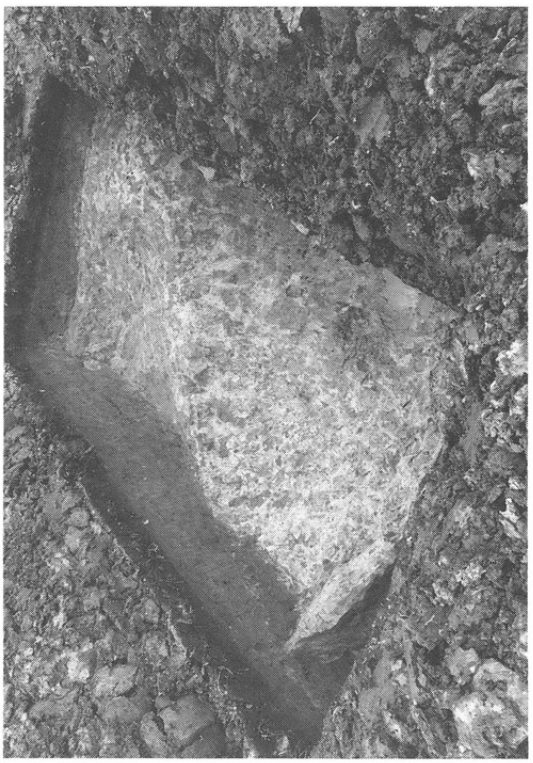
下出遺跡９４－５区トレンチ全景（南より）

波有手遺跡９５－１区１トレンチ全景（西より）

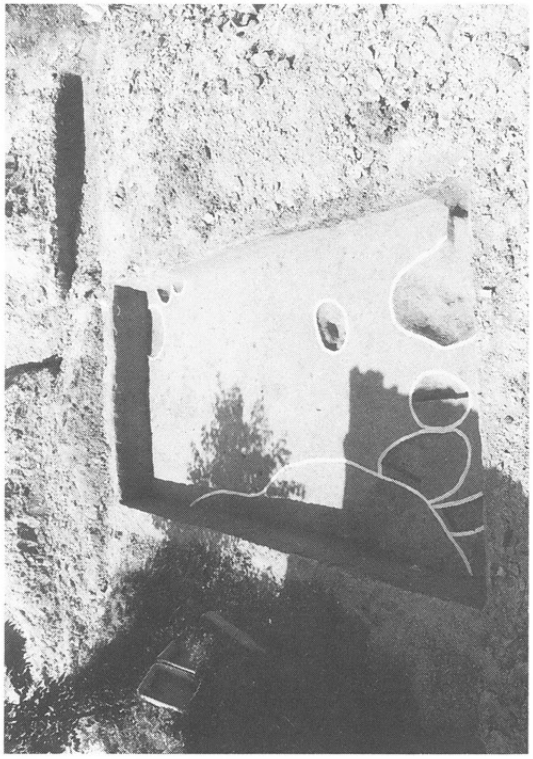
波有手遺跡９５－２区トレンチ全景（南より）

鳥取南遺跡９５－２区トレンチ全景（北より）

鳥取南遺跡９５－１区トレンチ全景（北より）



西鳥取遺跡９５－１区３トレンチ全景（南より）



箱作今池遺跡９４－３区Ｇ区全景（南より）

箱作今池９５－３区トレンチ全景（南西より）

箱作今池遺跡９５－１区トレンチ全景（西より）

箱作今池遺跡９５－４区２トレンチ全景（北より）

箱作今池遺跡９５－６区トレンチ全景（北より）

田山遺跡９５－１区トレンチ全景（南より）

田山遺跡９４－４区トレンチ全景（北より）

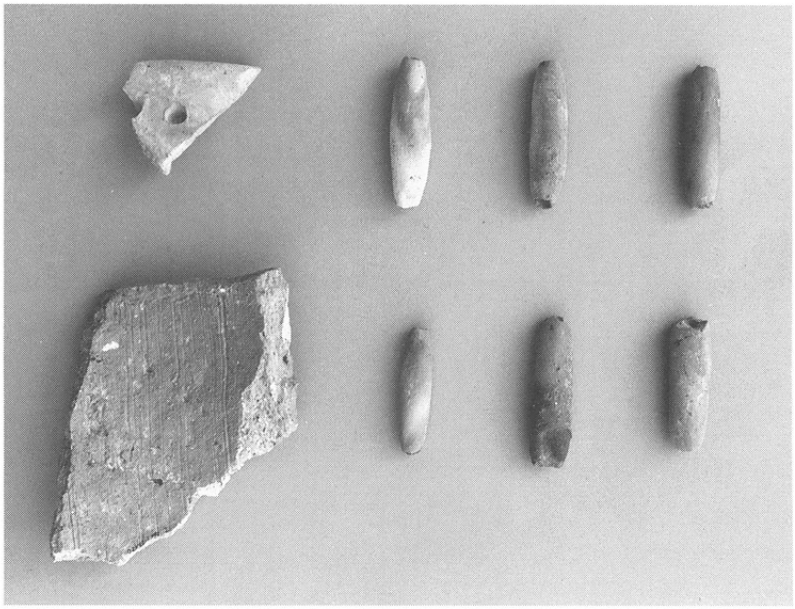
田山遺跡９５－２区トレンチ全景（西より）

尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物

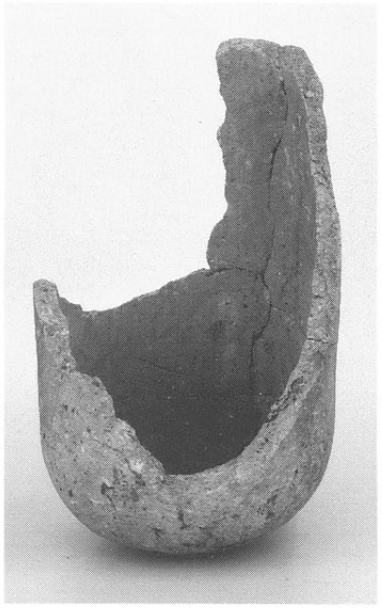
尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物

尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物

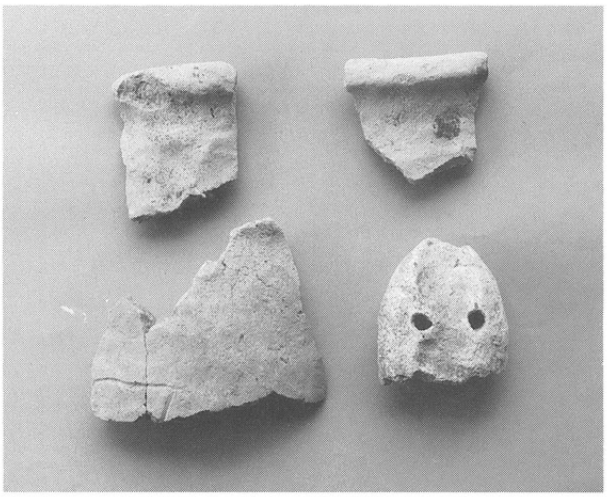
尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物



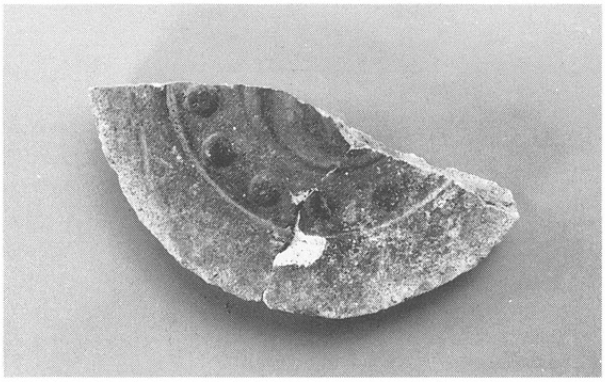
尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物



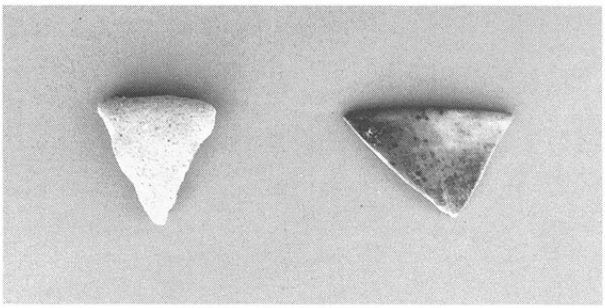
尾崎海岸遺跡９５－１区出土遺物



尾崎海岸遺跡９５－３区出土遺物

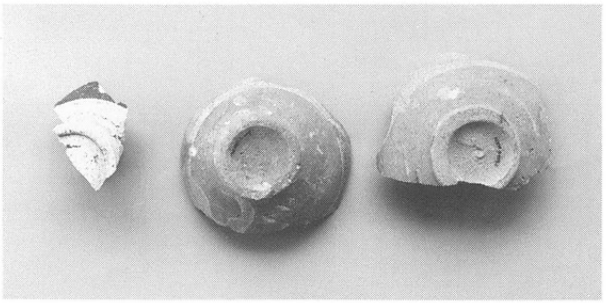


尾崎海岸遺跡９５－３区出土遺物



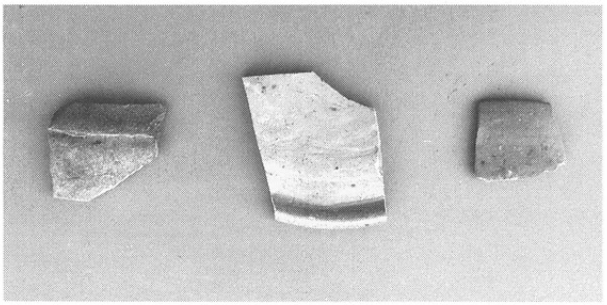
神光寺（蓮池）遺跡９５－１区出土遺物

神光寺（蓮池）遺跡９５－２区出土遺物

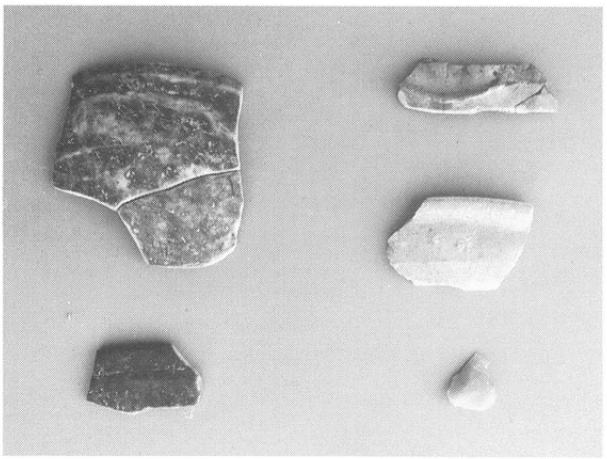


尾崎海岸遺跡９５－３区出土遺物

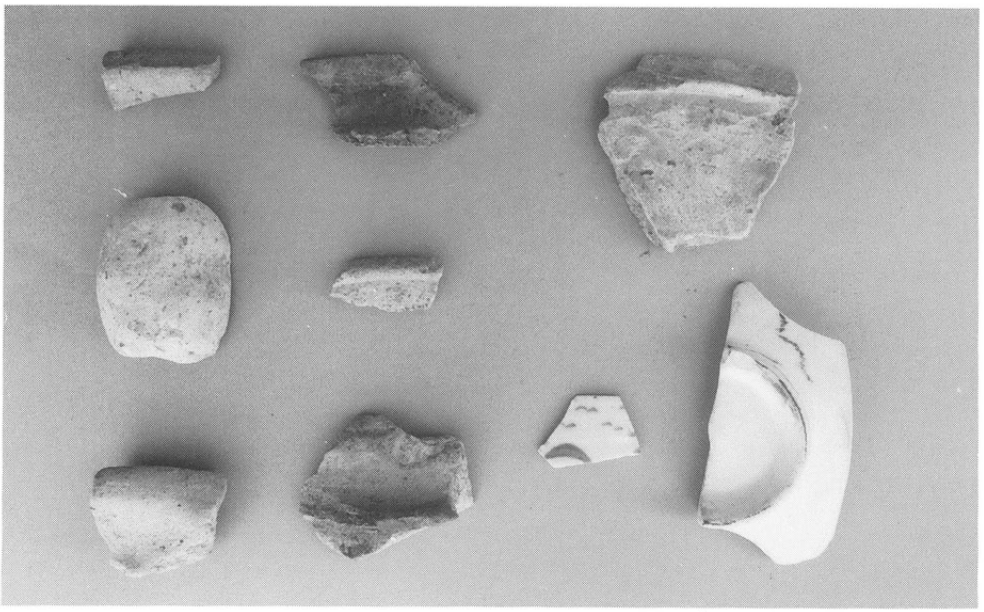
尾崎海岸遺跡９５－３区出土遺物



馬川遺跡９５－２区出土遺物

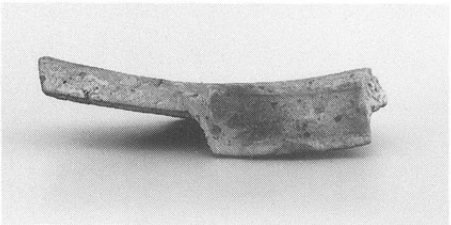


神光寺（蓮池）遺跡９５－２区出土遺物

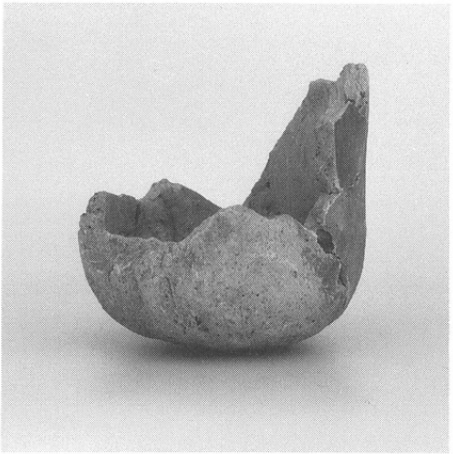


鳥取南遺跡９５－２区出土遺物

波有手遺跡９５－１区出土遺物

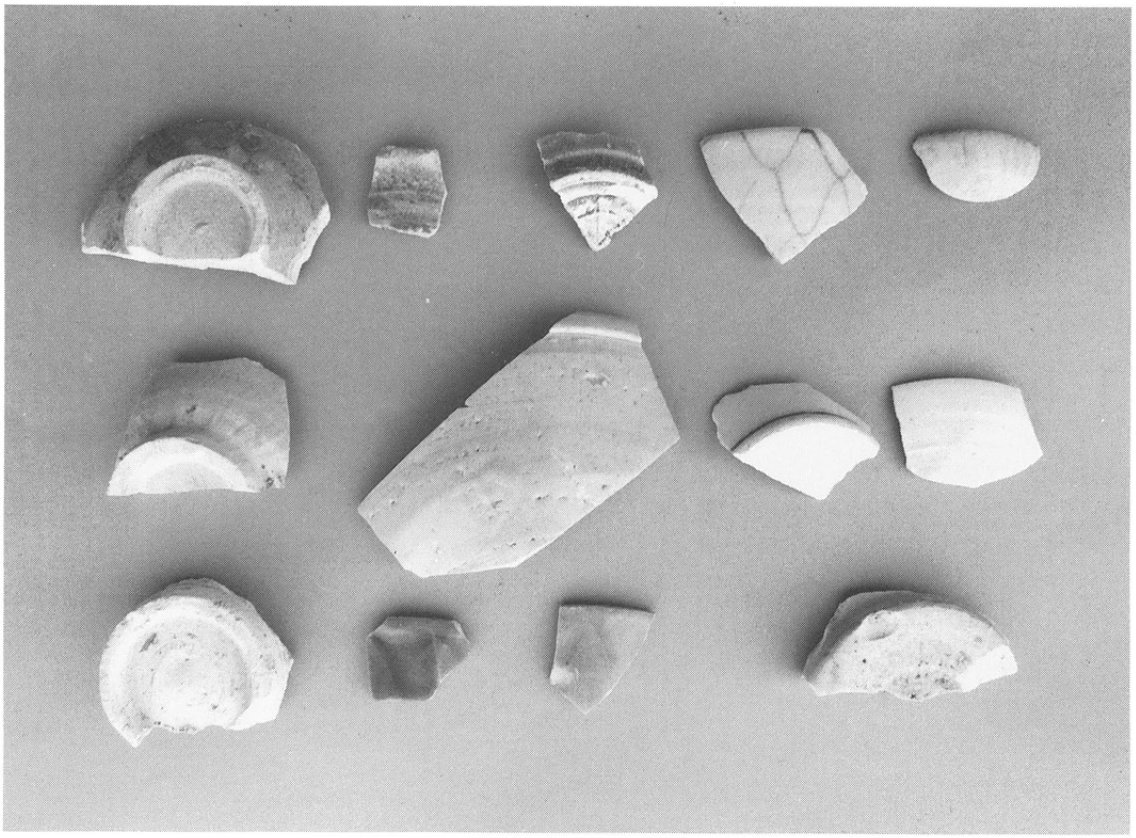


波有手遺跡９５－１区出土遺物



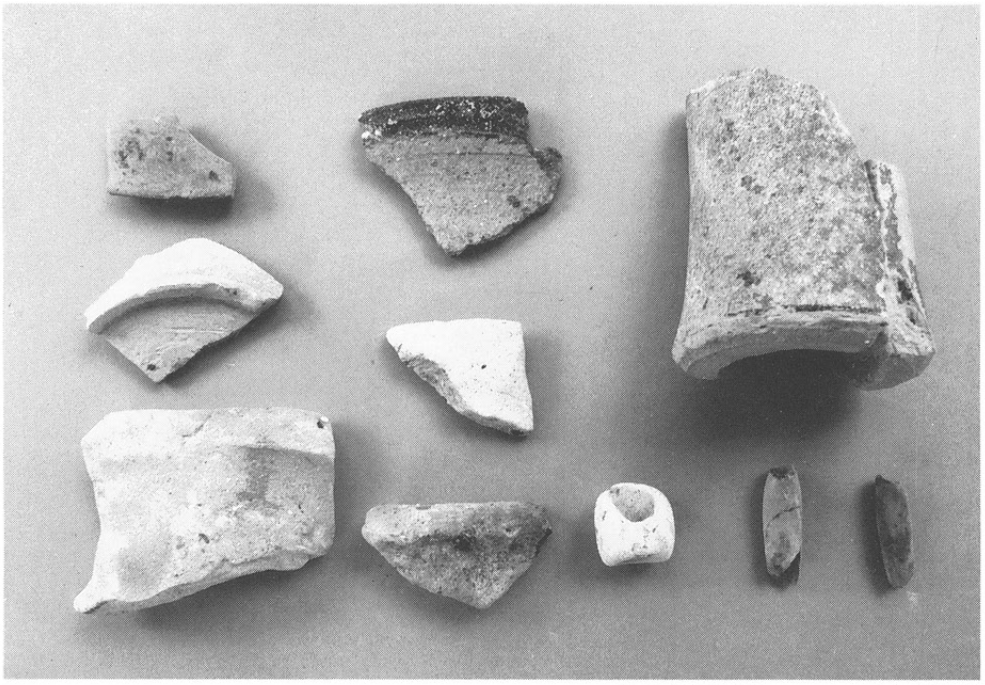
西鳥取遺跡９５－１区出土遺物

西鳥取遺跡９５－１区出土遺物



西鳥取遺跡９５－１区出土遺物

箱作今池遺跡９４－３区出土遺物

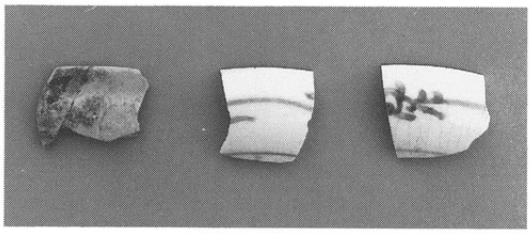


箱作今池遺跡９４－３区出土遺物

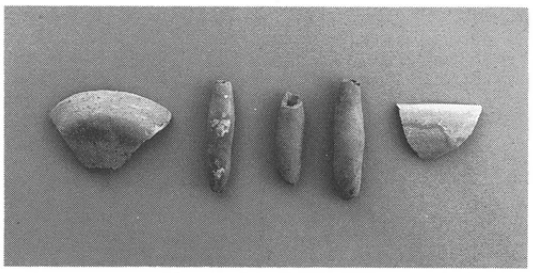
箱作今池遺跡９４－３区出土遺物

箱作今池遺跡９４－３区出土遺物

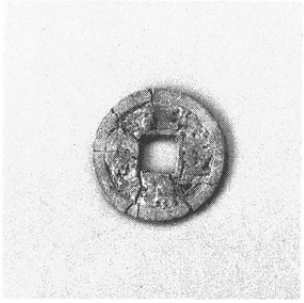
箱作今池遺跡９４－３区出土遺物



箱作今池遺跡９５－１区出土遺物

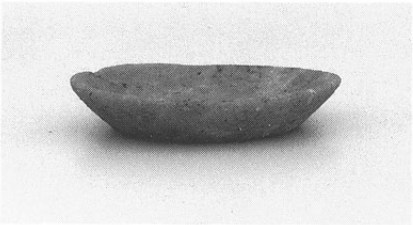


箱作今池遺跡９５－３区出土遺物



箱作今池遺跡９４－３区出土遺物

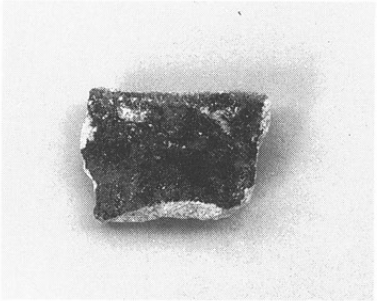
箱作今池遺跡９５－６区出土遺物



箱作今池遺跡９５－３区出土遺物

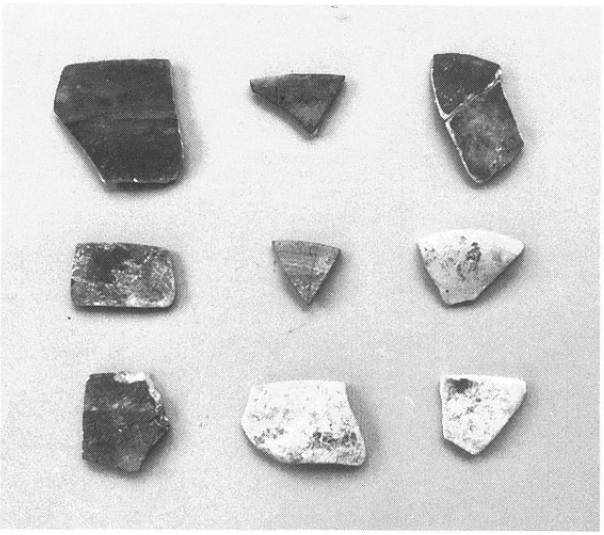
箱作今池遺跡９５－６区出土遺物

田山遺跡９５－１区出土遺物



箱作今池遺跡９５－４区出土遺物

箱作今池遺跡９５－６区出土遺物



田山遺跡９４－４区出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要　１１
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	２１
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁
編集機関	阪南市教育委員会社会教育課
所在地	599-02　大阪府阪南市尾崎町35-1　TEL 0724-71-5678
発行年月日	１９９６年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
尾崎海岸	大阪府阪南市尾崎町	２７２３２	２２	３４２１５５	１３５１６４０	９５０４２４	1.5	住宅
	同上	２７２３２	２２	３５２１５１	１３５１７０２	９６０１３１	4.2	住宅
福島	同上	２７２３２	２２	３４２２０２	１３５１８１６	９５０７１４	2.0	住宅
馬川	下出	２７２３２	２２	３４２１３１	１３５１５０８	９５０８２８	6.0	住宅
神光寺（蓮池）	石田	２７２３２	２２	３４２１０２	１３５１６５１	９５０３０２	3.7	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２１２５	１３５１７３８	９５０４２０	10.5	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２０５２	１３５１５５２	９５０６０２	18.1	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２１１０	１３５１７３０	９５１００２	2.0	住宅
下出	鳥取中	２７２３２	２２	３４２１１７	１３５１６５８	９５０３１０	4.5	住宅
向出	自然田	２７２３２	２２	３４２１２０	１３５１６１８	９５１００４	3.1	住宅
波有手	鳥取	２７２３２	２２	３４２１０３	１３５１６４１	９５０４１０	5.4	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２１０３	１３５１７００	９５１０１７	1.2	住宅
鳥取南	同上	２７２３２	２２	３４２１０５	１３５１８２１	９５０４２７	2.4	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２１０６	１３５１７３１	９５０４２５	2.3	住宅
西鳥取	同上	２７２３２	２２	３４２１１６	１３５１４０１	９５０４２０	87.0	住宅
箱作今池	箱作	２７２３２	２２	３４２０１６	１３５１４３０	９５０５０６	68.0	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２０４４	１３５１３４０	９５０５２６	2.0	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２０４３	１３５１３５１	９５０６０７	2.0	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２０４１	１３５１３４４	９５０８１０	3.2	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２０４０	１３５１３５１	９５１１０７	2.0	住宅
田山	同上	２７２３２	２２	３４２０２２	１３５１４４０	９５０３１３	2.8	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２００６	１３５１４５９	９５０５２９	2.0	住宅
	同上	２７２３２	２２	３４２００６	１３５１４５２	９５０８２５	1.0	住宅

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	生産遺跡	不明		土師質土器・蛸壷・陶器・瓦	
同　上	同　上	不明	土坑	土師質土器・蛸壷・有溝土錘 陶器・瓦	
福　島	散布地	不明		磁器	
馬　川	同　上	不明		土師器・須恵器・瓦器	
神光寺 （蓮　池）	散布地 社寺 その他の墓	不明	溝	土師質土器	
同　上	同　上	不明	溝　ピット2 落ち込み	土師器・須恵器・瓦器・製塩土器 磁器	
同　上	同　上	不明		土師器・須恵器・瓦器 土師質土器・磁器	
同　上	同　上	不明		弥生式土器	
下　出	同　上	不明			
向　出	同　上	不明	落ち込み	須恵器・瓦質土器・土師質土器	
波有手	同　上	不明	ピット	須恵器・陶器・磁器・土師質土器 瓦	
同　上	同　上	不明	土坑	磁器	
鳥取南	同　上	不明	落ち込み	弥生式土器・土師器・須恵器 瓦器	
同　上	同　上	不明	土坑	須恵器・須恵質土器・土師質土器 蛸壷・磁器・管状土錘	
西鳥取	同　上	不明		土師器・須恵器・蛸壷・瓦器 陶器・磁器	
箱作今池	同　上	不明	溝9　土坑10 ピット群	土師器・須恵器・製塩土器・蛸壷 管状土錘・瓦器・瓦質土器 白土器・青磁・白磁・貨銭	
同　上	同　上	不明	溝	土師器・蛸壷・瓦器・磁器	
同　上	同　上	不明		土師器・管状土錘・磁器	
同　上	同　上	不明		土師質土器・瓦	
同　上	同　上	不明		蛸壷・瓦・管状土錘・磁器	
田　山	同　上	不明	溝　土坑3 ピット2	土師質土器・白土器・須恵器 製塩土器・須恵質土器・瓦器	
同　上	同　上	不明		土師器・須恵器・瓦器・製塩土器	
同　上	同　上	不明		摺鉢	

阪南市埋蔵文化財報告ＸＸＩ

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＩ

１９９６年3月

発　行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の１

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町５丁目54